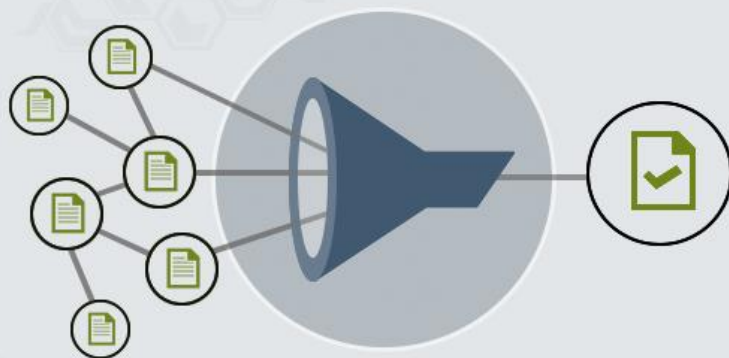


2024

A Unified Endpoint
Management
and Security Solution



スタートアップガイド

ManageEngine
Endpoint Central

2024 年 8 月 13 日 改訂

■著作権について

本ガイドの著作権は、ゾーホージャパン株式会社が所有しています。

■注意事項

本ガイドの内容は、改良のため、予告なく変更することがあります。
ゾーホージャパン株式会社は本ガイドに関しての一切の責任を負いかねます。当社はこのガイドを使用することにより引き起こされた偶発的もしくは間接的な損害についても責任を負いかねます。

■商標について

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

ManageEngine は、ZOHO Corporation Pvt.Ltd 社の登録商標です。

なお、本ガイドでは、(R)、TM 表記を省略しています。

内 容

1 はじめに.....	6
1-1 ManageEngine Endpoint Central について.....	6
1-2 本ガイドの対象ビルドについて.....	6
1-3 本ガイドの目的と内容	7
1-4 FAQ（よくある質問）	7
1-5 Endpoint Central の動作環境	9
1-6 本製品の UI に関する名称について	10
1-7 機能一覧	11
(A) 機能一覧 / OS による機能差異	11
(B) ManageEngine Patch Manager Plus との機能差異	12
2 Endpoint Central の利用開始時・利用終了時の操作.....	13
2-1 Endpoint Central のダウンロード（Endpoint Central サーバー）	13
2-2 サービスの停止と再開	14
サービスの停止	14
サービスの開始（再開）	15
2-3 アンインストール.....	15
2-4 アップグレード（バージョンアップ）	16
アップグレードの前提条件	16
アップグレードの手順（概要）	16
3 コンソール画面へのアクセス方法 / Endpoint Central の初期設定	17
3-1 Endpoint Central へのアクセス	17
3-2 メールサーバーの設定	18
3-3 製品ユーザーの追加.....	19
4 Endpoint Central における管理対象端末のグループ分け方法	20
4-1 Endpoint Central 上で設定可能なグループ分け	20
(A) リモートオフィス/ローカルオフィス.....	20
(B) ドメイン/ワークグループ	20
(C) カスタムグループ	21
4-2 グループ分けの活用	21
5 エージェントのインストールおよび関連する設定	22

5-1 エージェント設定（一般設定/エージェント保護設定/エージェントトレイアイコン）	22
5-2 複製ポリシーの作成	23
5-3 リモートオフィスの作成と配信サーバーのインストール	23
5-4 エージェントのインストール	26
(A) 手動でのインストール（Windows）	26
(B) グループポリシー（GPO）を利用したインストール（Windows）	27
(C) 手動でのインストール（Mac）	28
(D) スクリプトによるインストール（Mac）	28
(E) 手動またはツールによるインストール（Linux）	29
(F) コンソール画面上から実行するインストール（Windows/Mac/Linux）	29
5-5 ドメイン・ワークグループに関する設定	30
5-5-1 ドメイン・ワークグループの自動的な検出	30
5-5-2 ドメイン・ワークグループの手動登録	30
5-5-3 ドメイン・ワークグループの登録情報の編集（資格情報の登録）	31
5-5-4 エージェント設定（Mac エージェントの設定/Linux エージェントの設定）	32
5-6 エージェントのインストール後に行う設定	32
5-7 エージェントのアンインストール	32
6 その他の初期設定	33
(A) データベースのスケジュールバックアップ	33
(B) サーバメンテナンス	34
(C) Active Directory との同期	35
(D) パッチのクリーンアップ設定	35
(E) セキュリティ設定	36
(F) ManageEngine Endpoint Central API について	36
7 パッチ管理	37
7-1 パッチ管理タブの概要	37
7-2 パッチ管理の流れ（概要）	38
7-3 プロキシ設定	38
7-4 パッチ DB の設定	39
7-5 パッチスキャン	40
7-6 配布ポリシー	42
7-7 パッチの手動配布	42
7-8 パッチの自動配布（パッチ配布の自動化）	45
7-9 セルフサービスポータルの利用	47

7-10	パッチの承認ステータス	48
	デフォルトのステータスの選択（「未承認」の有効化・無効化）	48
	テスト用端末への自動配布を行わない場合	49
	テスト用端末への自動配布を行う場合	49
8	インベントリ管理	52
8-1	インベントリタブの概要	52
8-2	社内・組織内の資産の把握	53
8-3	インベントリスキャン（資産スキャン）の実施	54
	(A) 手動スキャン	54
	(B) スケジュールスキャン	55
8-4	ライセンス管理	56
8-5	禁止ソフトウェア	58
8-6	実行ファイルのブロック	59
8-7	ソフトウェア利用状況測定	60
9	ソフトウェア配布	62
9-1	ソフトウェアパッケージの保存先（ソフトウェアリポジトリ）の設定	62
	(A) ネットワーク共有	62
	(B) HTTP リポジトリ	63
9-2	パッケージの追加	64
	(A) 手動追加	64
	(B) テンプレートから自動追加	65
9-3	ソフトウェアのインストール/アンインストール	67
9-4	セルフサービスポータル	68
10	構成	70
10-1	構成の使用例	70
	(A) USB デバイス制御	70
	(B) レジストリの編集	72
	(C) メッセージボックス	73
	(D) カスタムスクリプト	74
10-2	構成のステータス	76
10-3	テンプレート	78
11	ツール	79
11-1	リモート制御	79

1 1 - 2 システムマネージャー	81
(A) コマンドプロンプト	81
(B) レジストリエディタ	83
1 1 - 3 リモートシャットダウン	83
(A) 即時での実施	83
(B) スケジュール設定で実施	84
1 1 - 4 アナウンス	86
1 1 - 5 システムツール	87
1 2 モバイルデバイス管理	88
1 3 レポート	89
1 3 - 1 既定で利用できるレポート	89
Active Directory レポート	89
その他の既定のレポート	91
1 3 - 2 ユーザー定義のレポート	92
スケジュールレポート	92
カスタムレポート	94
クエリレポート	94
1 4 ライセンス・お問い合わせ	95
1 4 - 1 評価版の試用	95
1 4 - 2 ライセンスの種類・価格	95
(A) ライセンスの種類	95
(B) ライセンスの価格	95
1 4 - 3 ライセンスの適用	96
1 4 - 4 お問い合わせ	97

■導入編

1 はじめに

1 - 1 ManageEngine Endpoint Central について

この度は本ガイドをダウンロードしていただき、誠にありがとうございます。

ManageEngine Endpoint Central は、IT 資産管理やパッチ管理、PC セキュリティの強化などの目的でご利用いただける「統合エンドポイント管理（UEM）ソフトウェア」です。Windows / Mac / Linux をはじめ、Windows Server や iOS / Android / Chrome OS といったマルチ OS の管理に対応しており、設定の一括変更、インベントリ管理、脆弱性パッチ管理などの機能を圧倒的な低価格で手軽に実現できます。特に、パッチ管理においては Java や Adobe、Web ブラウザーなどサードパーティ製品のパッチ管理に対応しており、WSUS なしでパッチのインストールを実行できます。スケジューラー機能や自動インストールにも対応しており、セキュリティの向上と工数削減を同時に達成可能です。

また、インストールサーバーは物理環境に加えて Amazon Web Services や Azure などのクラウド環境もご利用いただけるため、お客様の規模や環境に合わせた導入が容易です。管理コンソールは Web ブラウザーで表示するため、非常に使いやすいツールです。



1 - 2 本ガイドの対象ビルドについて

本ガイドは ManageEngine Endpoint Central 11 ビルド 11.2.2300.30 を元に作成されています。

これ以外のビルドに対しても本ガイドをご使用いただけますが、一部表記や機能に差異がある場合があります。

なお、本ガイドは随時更新を行っております。そのため本ガイド内に掲載しているスクリーンショット画像に関して、一部の個所では複数のビルドから取得した画像が混在しております。あらかじめご承知おきください。

また、最新のビルドにもとづくご案内は、以下のナレッジを合わせてご参照ください。本ガイドの各所にも、最新ナレッジの URL を記載しています。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4474

1 - 3 本ガイドの目的と内容

本書は、Endpoint Central をご使用になる方が、製品概要を手早く理解する手助けとなることを目的としています。本書では Endpoint Central のインストールから基本的な操作方法までをカバーしています。主要な設定と機能は本書に記載しておりますが、Endpoint Central の製品機能のすべてを網羅的にご案内する文書ではないことをご承知おください。

<導入編>（1 章～6 章）では Endpoint Central の要件、サーバーのセットアップ方法から管理対象へのエージェントのインストールまでの手順を説明しています。<活用編>（7 章～14 章）では、パッチ管理、インベントリ管理やリモートコントロール機能、USB 制御など、ご利用の多い機能の基本的な利用方法に重点を置いて説明しています。

なお本ガイドでは、（例）「〇〇については [3-1](#)[3-2](#)[3-3](#) および [6 エージェント](#)」を閲覧ください。」というように、四角の囲みを用いて文章内へのリンクを示しています。リンクをクリックすることで、内容が関連する章や節をお読みいただけます。

1 - 4 FAQ（よくある質問）

Endpoint Central についてよくお問い合わせいただく内容をご紹介します。

管理可能できる OS は何ですか？

Windows（Windows Server を含む） / Mac / Linux です。また、モバイルデバイスの管理にも対応しております。詳細は下記のシステム要件ページより「オンプレミス版」→「エージェントをインストール可能な OS」をご覧ください。

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/system-requirements.html#AgentSoftware

エージェントのインストールは必須ですか？

はい。管理対象へのエージェントインストールが必須です。Endpoint Central で管理可能な対象は、エージェントがインストールできる端末のみとなります。なおエージェントのインストールには様々な方法があり、Active Directory のグループポリシーを使用した一括インストールも可能です。

パッチ管理機能において、WSUS との違いは何ですか？併用は可能でしょうか？

WSUS (Windows Server Update Services) との大きな違いは、Microsoft 製ソフトウェア以外のサードパーティ製品のパッチ管理が可能な点です。また WSUS との併用も可能ですが、代替することも可能です（Endpoint Central のパッチ配布機能は WSUS に依存しません）。

Windows Feature Update/MS Office 2019/MS Office 365(M365 のアプリケーション)の更新管理は可能ですか？

はい。パッチ管理機能において、Windows OS アップデートの種類ごとの管理が可能です。WSUS では配信ができない MS C2R 形式の Office のパッチ配布にも対応しております。対応するアプリケーションの詳細につきましては、以下のリンクをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/products/Desktop_Central/patch_management_supported_application.html

帯域幅の消費を抑える仕組みはありますか？

Endpoint Central には、帯域幅の消費を抑える以下の仕組みがあります。パッチやソフトウェアを配布する際、Endpoint Central サーバー/配信サーバーから配信することで、サーバーへの負荷やネットワークの帯域幅消費を削減します。

- ・通信のタイミングを端末ごとに少しずつずらし、通信周期のみ一定とする仕様（「リフレッシュサイクル」）
- ・管理対象のスキャン結果は、前回との差分のみをサーバーに送信する
- ・配信サーバーからパッチ・ソフトウェアを配布する

メモ：

リフレッシュサイクルの仕組みにより、パッチ配布機能などでのダウンロードは時間をずらして実行されます（配布のスケジュール設定を行う際にはご注意ください）。

リフレッシュサイクルについて、詳細は以下のナレッジをご覧ください。

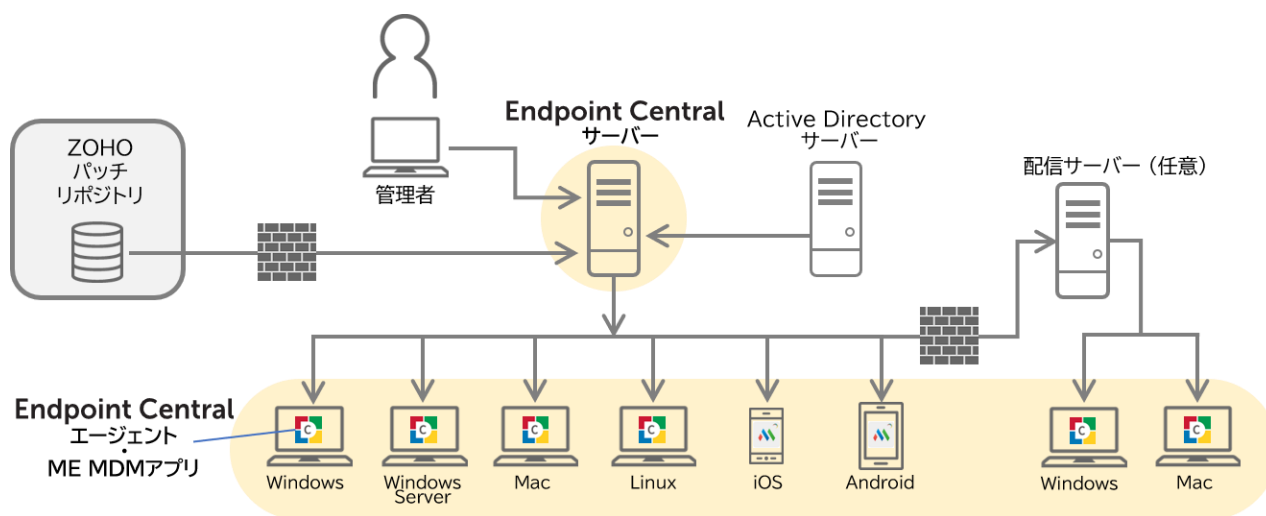
https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1287

USB デバイス使用制限で、対象範囲を指定し、仕様を許可する例外デバイスを登録できますか？

はい、可能です。操作手順は [10-1\(A\) USB デバイス制御](#) をご覧ください。

操作ログの取得は可能ですか？

Endpoint Central には、操作ログ収集の機能はございません。ManageEngine EventLog Analyzer など、他製品と組み合わせでの使用をご検討ください。



Endpoint Central の利用イメージ図

Endpoint Central をご利用いただくためには、サービス（ManageEngine UEMS - Server）をホストする **Endpoint Central サーバー** が必要です。また、Endpoint Central サーバーの機能の一部を代わりに担う **配信サーバー** を任意で設置します。そして、管理対象となる PC には **エージェント** を必ずインストールする必要があります。iOS/Android 端末を管理する場合、対象端末に「**ME MDM**」アプリをインストール（※）します。

※ モバイル端末が管理対象に含まれる場合に関して、一部の機能に限定して当製品をご利用になる場合には ME MDM アプリのインストールを省略できます。詳細はお問い合わせ（→ [14-4](#)）ください。

Endpoint Central サーバー / 配信サーバー / エージェント のシステム要件について以下の Web ページに記載していますので、当製品の導入時には必ずご確認ください。

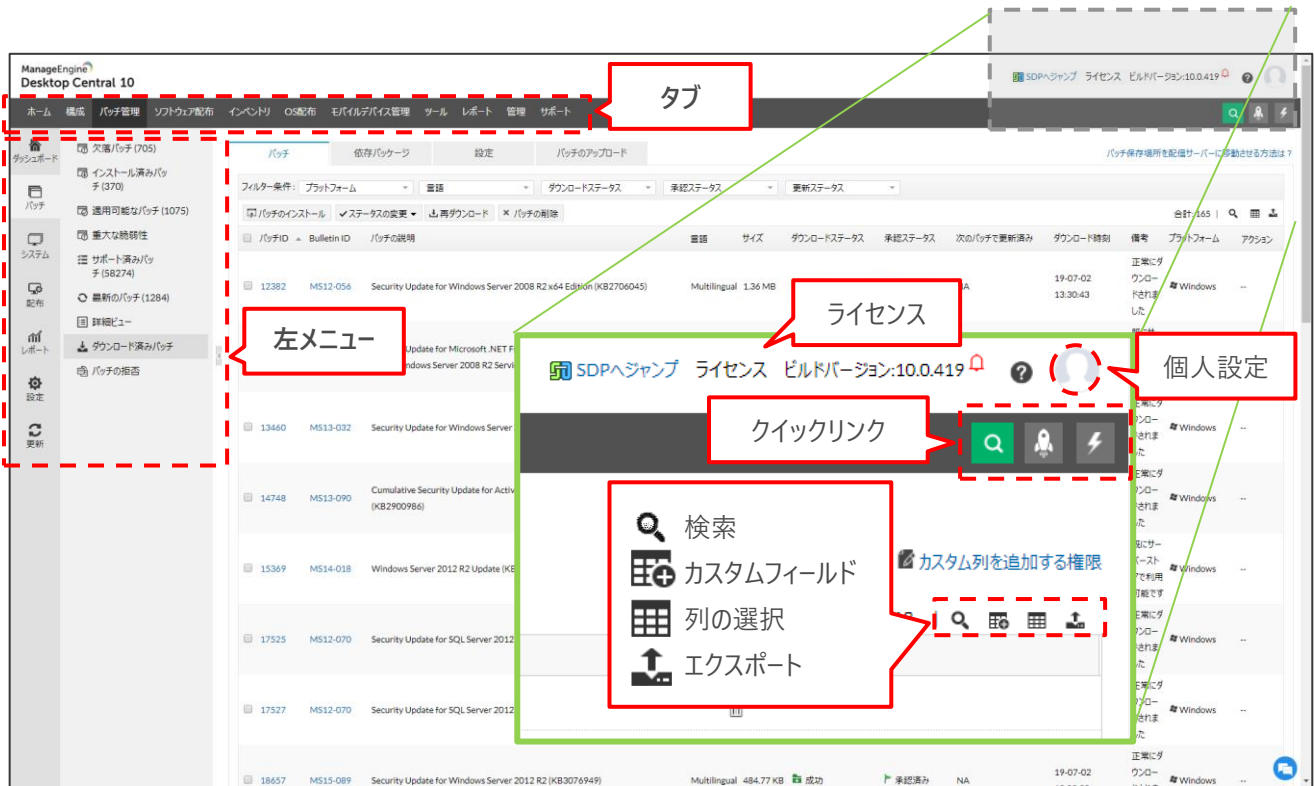
https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/system-requirements.html

また、開放する必要がある**通信ポート**について、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=10

1-6 本製品の UI に関する名称について

本製品のユーザーインターフェース上の各部分について、本ガイドでは以下のような名称を使用します。



ユーザーインターフェースの名称

- **タブ**：Endpoint Central のモジュール/機能ごとにタブが分かれており、[構成] [パッチ管理] [ソフトウェア配布]などのほか、各種サマリーを表示する[ホーム]、設定を行う[管理]、レポートを出力する[レポート]、英語サポートコンテンツへのリンクがある[サポート]があります。
- **左メニュー**：タブごとに表示が切り替わります。
- **個人設定**：表示言語やパスワードの変更、サインアウトはここから可能です。
- **ライセンス**：ライセンスの適用や追加、詳細表示が可能です。隣にビルド番号が表示されます。
- **クイックリンク**：初回ログイン時にワークフロー図を表示するほか、検索やページ一覧がご利用いただけます。
- **テーブル共通の機能**
 - **検索**：一部のカラムに対して、検索機能があります。
 - **カスタムフィールド**：一部の表において、カラムを追加することが可能です。
 - **列の選択**：表示・非表示を切り替えられます。
 - **エクスポート**：表示されている内容を、pdf, csv, xls 形式でエクスポート可能です。

メモ： 画面サイズの関係で表示されていないタブがある場合、一番右のタブの右に「…」(三点リーダー)が表示されるため、この三点リーダーをクリックすることで、非表示化されていたタブにアクセスできます。

1-7 機能一覧

(A) 機能一覧 / OS による機能差異

Endpoint Central でご利用いただける主な機能は以下の表のとおりです。

機能概要		W	M	L
カテゴリー				
パッチ管理	OS パッチのインストール	○	○	○
	OS のアップグレード	○	○	—
	サードパーティ製品パッチのインストール	○	○	○
	ユーザーによるインストールの延期許可	○	×	○
	ユーザーによる再起動の延期許可	○	○	○
	Microsoft Defender 定義ファイルの更新管理	○	—	—
	パッチテスト（テスト環境への適用）	○	○	○
	パッチ管理の自動化	○	○	○
	パッチの拒否	○	○	×
	セルフサービスポータル	○	×	○
インベントリ管理	定期スキャンによるインベントリ（ハードウェア・ソフトウェア情報）の収集	○	○	○
	インベントリ変更をトリガーとするアラートのメール通知	○	○	○
	禁止ソフトウェアの登録	○	×	×
	ソフトウェア使用時間の計測	○	×	×
	ライセンスの管理	○	○	○
ソフトウェア配布	MSI / MSP / EXE / APPX / MSIEXEC / MSU 形式のインストール	○	—	—
	PKG / APP 形式のインストール	—	○	—
	DEB ベースアプリケーションのインストール	—	—	○
	配布前後の自動実行（既存ソフトウェア/レジストリ/空き容量の確認、パスやショートカット、フォルダー、レジストリ編集、スクリプト実行など）	○	×	×
ツール	セルフサービスポータル	○	○	×
	リモート制御（画面共有/ファイル転送）	○	○	※1
	チャット、音声通話、動画通話	○	×	×
	デフラグ、チェックディスク、クリーンアップ	○	×	×
	電源管理（Wake on LAN）	○	×	×
	電源管理（リモートシャットダウン）	○	○	○

W=Windows/M=Mac/L=Linux
○=対応/△=一部対応/×=非対応/—=該当機能なし

機能概要		W	M	L
カテゴリ				
構成	USB デバイス制御	○	△	△
	EXE のブロック	○	×	×
	ユーザー/グループの追加/削除	○	○	×
	ファイルの追加/移動/削除	○	○	×
	プリンターの追加/削除	○	×	×
	AirPrint の設定	—	○	—
	フォルダーのバックアップ作成	○	×	×
	レジストリ/環境変数/パスの編集	○	—	—
	ファイアウォール設定	○	—	—
	Wifi 設定	○	○	—
	ネットワークドライブの割り当て	○	—	—
	タスクスケジューラ	○	—	—
	カスタムスクリプト実行	○	○	○
	スリープ移行時間の制限	○	○	×
	システム環境設定の制限	—	○	—
レポート	ログインウィンドウのカスタマイズ	—	○	—
	スタートアップ時のメッセージ表示	○	○	○
	パッチレポート	○	○	○
	インベントリレポート	○	○	○
	ユーザーログイン時間のレポート	○	×	×
	Active Directory レポート	○	×	×
その他	USB デバイス使用履歴レポート	○	×	×
	クエリレポート	○		
	レポートのスケジュール出力	○		
	WAN 経由での管理	○	○	○
	配信サーバーによる負荷分散	○		
	管理者の追加	○		
	役割ベースの権限管理	○		
	2 要素認証	○		
	Active Directory との同期	○		
	Active Directory 認証	○		
アドオン	フィールドの追加と CSV インポート	※2		
	OS 配布	○	×	×

※1 Linux へのリモートコントロールは、X Window System の GUI コンポーネントが利用できる場合に限りです。

※2 フィールドの追加は、インベントリ管理に関するテーブルに限りです。

(B) ManageEngine Patch Manager Plus との機能差異

Patch Manager Plus は、ManageEngine シリーズのパッチ管理に特化したソフトウェアです。Endpoint Central のパッチ管理機能のみを切り出した製品となっており、**Endpoint Central は Patch Manager Plus のパッチ管理機能を全て揃えています。**

Endpoint Central ユーザーは Patch Manager Plus を別途ご購入いただく必要はありません。

ManageEngine		Endpoint Central	
ManageEngine Patch Manager Plus		・ソフトウェア配布	・OS 配布
・リモートシャットダウン/再起動		・インベントリ管理	・スクリプト実行
・ソフトウェア自動更新の無効化		・USB 制御	・遠隔操作ツール
・パッチ管理		・モバイルデバイス管理	・構成
・レポート			

Patch Manager Plus と Endpoint Central の比較

※Patch Manager Plus の詳細は以下の URL をご覧いただくか、お問い合わせください。

https://manageengine.jp/products/Patch_Manager_Plus/

2 Endpoint Central の利用開始時・利用終了時の操作

Endpoint Central のインストーラーを入手し利用を開始する手順や、利用を終了する際の手順を説明します。製品アップグレードについても説明します。

2 - 1 Endpoint Central のダウンロード（Endpoint Central サーバー）

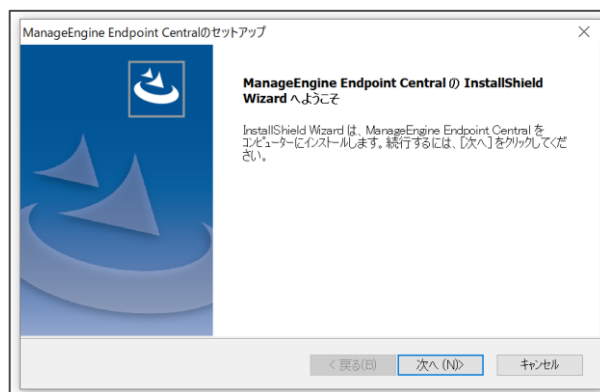
Endpoint Central を利用開始するには、まず「Endpoint Central サーバー」をセットアップします。Endpoint Central サーバーは、管理対象の各端末へ適用する各種設定について、また、各端末から受信した各種情報について、集約する役割をもちます。Endpoint Central サーバーのセットアップは、以下の手順で行います。

1. 以下の URL を開き、必要事項を入力して Endpoint Central をダウンロードします。

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/download.html

※ 本スタートアップガイドの以降のページでは、エージェントと区別する意味から「Endpoint Central サーバー」という表現を使用しています。製品ダウンロードページ上において、単に「Endpoint Central（のダウンロード）」と表記している場合、「Endpoint Central サーバー」のセットアップを行うためのインストーラーをダウンロードすることを指しています。

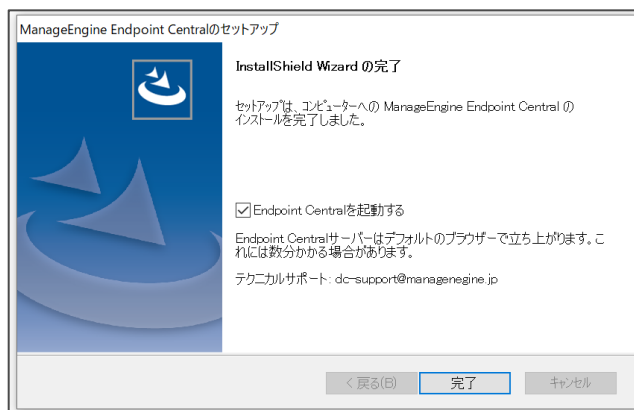
2. ダウンロードしたインストーラーを実行します。画面の案内に沿って進めます。



3. 途中で以下のような画面が表示された場合、こちらの画面はグローバル本社による英語でのサポートのことを表しています。特に事情のない限り、何も入力せず「Skip」をクリックしてください。

テクニカルサポート（任意）の案内

4. 次のような画面が表示され、インストールが終了します。続けて初期設定を進めるには、「Endpoint Central を起動する」にチェックを入れて「完了」をクリックします。



インストールの完了

5. **第3章**に従って、初期設定を行います。

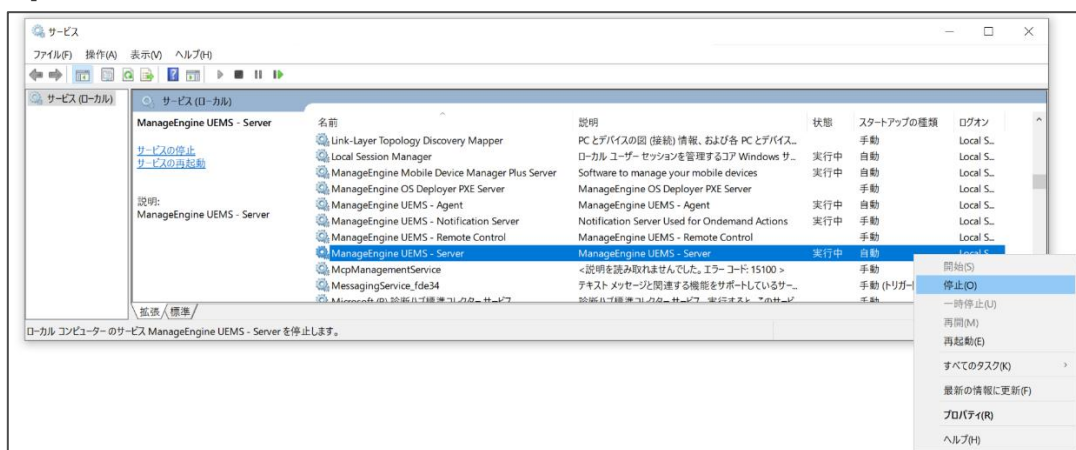
以上で Endpoint Central サーバーのセットアップが完了します。

2 - 2 サービスの停止と再開

サービスの停止

Endpoint Central サーバーを停止させる（サービスを停止させる）には、以下の方法を利用します。

1. コントロールパネル → （システムとセキュリティ → ）管理ツール → サービスを開き、[ManageEngine UEMS – Server] を右クリックします。



サービス一覧からの停止

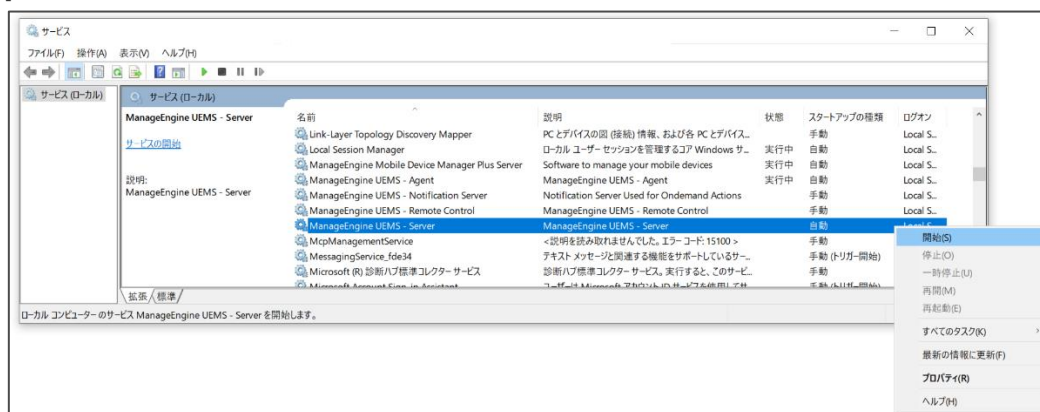
2. [停止]をクリックします。

なお、Endpoint Central サーバーを停止させても、Endpoint Central エージェントは自動的にサービスが停止しません。管理対象端末側からのサービス停止については [エージェント保護設定]（→ **5-1 エージェント設定**）をご覧ください。また、必要に応じて **5-7 エージェントのアンインストール** をご利用ください。

サービスの開始（再開）

停止した Endpoint Central サーバーを再開させる際は、以下の方法でサービスを開始します。

1. コントロールパネル → （システムとセキュリティ → ）管理ツール → サービスを開き、[ManageEngine UEMS - Server]を右クリックします。



サービスの開始

2. [開始]をクリックします。

2 - 3 アンインストール

当製品の利用を終了し、以後利用する予定がない場合は、以下の手順でアンインストールを実行します。

1. すべてのエージェントがアンインストールされていることを確認します。（エージェントのアンインストールについては [5-7](#) で説明します。）また、モバイルデバイスとして管理している端末（→ [第 12 章](#)）については、登録（エンロールメント）が解除済み（プロファイルが削除済み）であることを確認します。
2. コントロールパネル → プログラム → プログラムのアンインストール を開きます。
3. ManageEngine Endpoint Central – Server を選択し、アンインストール をクリックします。
4. 画面の指示に従い、アンインストール作業を進めます。

メモ：上記のとおり、Endpoint Central サーバーのアンインストールの**前**に必ずエージェントのアンインストール・登録の解除を行ってください。

Windows/Mac/Linux のコンピューターについて Endpoint Central による管理を終了する場合、Endpoint Central サーバーを先にアンインストールしてしまうと、設定やご利用状況によってはエージェントをアンインストールできなくなることがあります。

また、それ以外のデバイス（Android 端末や iPhone など）について Endpoint Central による管理を終了する場合、Endpoint Central サーバーを先にアンインストールしてしまうと、登録の解除（プロファイルの削除）ができなくなります。将来的に当該デバイスを他社製 MDM ツールに登録しようとした場合、Endpoint Central のプロファイルが残存した状態のままでは他社製品のプロファイルがインストールできず、登録できません。

2-4 アップグレード（バージョンアップ）

ManageEngine Endpoint Central は、アップグレードも簡単に実行できます。ここでは概要のみを説明します。

アップグレードの前提条件

ご契約のライセンス形態（→ [14-2](#)）により、アップグレードに必要な前提条件が異なります。

- **通常ライセンス**でご利用の場合で、最初の保守契約期間（原則 1 年）の途中で製品のアップグレードを実施する場合、有効なライセンスが製品に適用済みであればアップグレードを実施いただけます。
- **通常ライセンス**でご利用の場合で、最初の保守契約期間（原則 1 年）が終了して以降に製品のアップグレードを実施するには、保守契約が更新済みであり、かつ、**AMS ライセンス**のライセンスファイルを製品に適用済みである必要があります。保守契約の更新と同時に AMS ライセンスファイルをお送りしておりませんので、弊社担当まで AMS ライセンスをご請求ください。 <https://www.manageengine.jp/purchase/license-flow.html#ams>
- **年間ライセンス**でご利用の場合、有効なライセンスが製品に適用済みであればアップグレードを実施いただけます。

アップグレードの手順（概要）

1. 新しいバージョン（ビルド）がリリースされると、ご契約中のお客様に対して弊社からご案内いたします。アップグレードに必要なサービスパックをお客様にてダウンロードします。
2. [2-2](#) にしたがって、サービスを停止します。
3. サービスパックを適用します。（詳細な適用方法は アップグレード手順についてのナレッジをご覧ください。
https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?cat=33 ）
4. [2-2](#) にしたがって、サービスを再開させます。以上でアップグレードが完了します。
5. エージェントは、Endpoint Central サーバーのアップグレード後、自動的にアップグレードされます。手動でエージェントをアップグレードする必要はありません。

メモ：日本国内向けにリリースされたビルド以外へのアップグレードはお止めください。弊社（日本法人）からのご案内に沿って、アップグレードを実施くださいますようお願いいたします。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=834

コンソール画面上に表示されるポップアップは、日本国内向けリリースではございません。ご注意ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2976

3 コンソール画面へのアクセス方法 / Endpoint Central の初期設定

Endpoint Central のコンソール画面へのアクセス方法について説明します。また、Endpoint Central の運用を開始するために必要な初期設定について説明します。

3 - 1 Endpoint Central へのアクセス

1. サービスを起動すると自動的に Web ブラウザーが起動し、ログイン画面が起動します。
(Web ブラウザーが起動しない場合) Web ブラウザーを起動しアドレスバーに [http\(s\)://\[サーバー名\]:\[ポート番号\]](http(s)://[サーバー名]:[ポート番号]) を入力し、移動します。
例： <https://Central-Server:8383> (デフォルトのポート番号は 8020 (http 接続) / 8383 (https 接続) です)
- メモ：上記の方法でリモートマシン上の Endpoint Central にアクセスできないときは、Endpoint Central がインストールされているマシン上の Web ブラウザーから <http://localhost:8020> にアクセスできるかどうかをご確認ください。
2. 管理者として Endpoint Central にログインするには、初期ユーザー名として '**admin**'、パスワードとして '**admin**' と入力して[Sign in]をクリックします。(AWS Marketplace から Endpoint Central を購入した場合、管理者アカウントの初期パスワードは AWS の インスタンス ID となります。)



Endpoint Central へのログイン

3-2 メールサーバーの設定

Endpoint Central では、作成したレポートの送信や、各種通知をメールで自動的に行うことができます。製品ユーザーを追加（→ [3-3](#)）する際や、ログイン時の二段階認証（メールによる方法の場合）を設定（→ [第6章 \(E\) セキュリティ設定](#)）する際にも、Endpoint Central サーバーはメールを送信します。メールを送信するために、送信元となるメールサーバーの情報をあらかじめ Endpoint Central 上に登録する必要があります。

メールサーバーの情報を登録するには、以下の手順を実施します。

1. **[管理タブ]** → **[サーバー設定]** → **[メールサーバー設定]** を開きます。
2. 各項目を入力します。
 - ・サーバー名(送信): メールサーバー名を入力します。
 - ・ポート(送信): メールサーバーのポートを入力します。
 - ・送信者名: メールの送信者名を入力します。
 - ・送信メールアドレス: 送信元となるメールアドレスを入力します。
 - ・送信テスト用メールアドレス: テストメールの宛先を入力します。入力後[テストメールの送信]をクリックすると、テストメールが送信されます。
 - ・プロトコル: SMTP または SMTPS を選択します。
 - ・TLSの有効化: TLSを有効化する場合は[はい]を選択します。
 - ・認証の強制: ログインが必要な場合はチェックを入れ、ユーザー名/パスワードを入力します。
3. **[保存]**をクリックします。

メールサーバー設定

認証タイプ ☒ Basic ☐ OAuth ?

サーバー名 (送信) *

ポート (送信) *
[既定値: 25]

送信者名

送信メールアドレス *

送信テスト用メールアドレス * [テストメールの送信](#)

プロトコル ☒ SMTP ☐ SMTPS ?
SMTPS通信は完全に暗号化されるため、より安全です

TLSの有効化 ☐ はい ☒ いいえ ? [詳細](#)

☐ 認証の強制

メールサーバーの設定

3-3 製品ユーザーの追加

製品ライセンスのご契約時（または更新時）に「追加ユーザーオプション」を購入されている場合、Endpoint Central のコンソール画面にアクセスする製品ユーザーを追加することができます。（ここでのユーザーとは、管理対象端末を使用するエンドユーザーではなく、コンソール画面上から Endpoint Central の操作（閲覧を含む）を行う人を指します。）

Endpoint Central では、追加した製品ユーザーに対して、**タブごとの実行/閲覧権限を個別に付与したり、管理可能な端末の範囲を制限したり**することができます。

（※ 管理可能な端末の範囲が制限された製品ユーザーを追加するには、あらかじめ管理対象端末をグループ分け（→ [第4章](#)）しておきます。すべての PC に対する管理権限を製品ユーザーに付与する場合、グループ分けが未設定でも製品ユーザーの追加が可能です。）

1. [管理]タブ → [グローバル設定] → [ユーザー管理]ページ → [役割] 小タブを開き、役割を確認します。既定の役割で不十分な場合は、[役割の追加]をクリックして新規役割を作成し、権限を編集します。
2. [ユーザー]小タブを開き、[ユーザーの追加]をクリックします。
3. ユーザー名や、役割の選択、メールアドレス、管理対象の範囲について設定します。
4. 入力したメールアドレス宛に招待メールが届きます。メール内のリンクをクリックし画面の案内に従うことで、製品ユーザーの追加が完了します。

設定できる権限（役割）の詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1859

The image contains two screenshots of the Endpoint Central web interface. The left screenshot shows the 'Roles' (役割) tab with three steps: Step 1: Define the role (設定の名称: 資産管理, 説明: PCおよびソフトウェアライセンスの管理), Step 2: Select modules and access permissions (a table with checkboxes for Full Control, Write, Read, and No Access), and Step 3: Select MDM function access permissions (another table). The right screenshot shows the 'Add User' (ユーザーの追加) page with fields for Authentication Type (Active Directory or Local), Username, Password, Role, Email, Phone Number, and Language, followed by a section to specify the management scope (Management PC and Management Devices).

役割の追加

ステップ1: 役割を定義する
役割の名称*: 資産管理
説明: PCおよびソフトウェアライセンスの管理

ステップ2: モジュールとアクセス権限を選択する

モジュール名	フルコントロール	書き込む	読み取り	アクセスなし
構成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パッチ管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ソフトウェア配布	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
インベントリ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ツール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
リモートデスクトップ共有	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
レポート	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
管理対象	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ステップ3: MDM機能のアクセス権限を選択する

モジュール名	フルコントロール	書き込む	読み取り	アクセスなし
プロファイル管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
アプリ管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
インベントリ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

ユーザーの追加

ステップ1: ユーザーの追加

Authentication Type: ☐ Active Directoryの認証 ☒ ローカル認証

ユーザー名*: (5文字以上)

パスワード*: [パスワードポリシーの設定](#)

パスワードの確認*:

役割*: 役割の選択

メール*:

電話番号:

言語: 日本語 [Japanese]

サポート言語をリクエストするには、[こちら](#)をクリックしてください。

ステップ2: 管理対象範囲の指定

管理PC: ☒ すべてのPC ☐ ユニークな静的グループ ☐ リモートオフィス

管理デバイス: ☒ すべてのデバイス ☐ 選択されたグループ

4 Endpoint Central における管理対象端末のグループ分け方法

Endpoint Central では管理対象端末を効率よく管理するために、端末をグループ分けすることができます。次の章で実施する、管理対象となる各端末へのエージェントのインストールに先立って、この章では端末のグループ分け方法について説明します。

4 - 1 Endpoint Central 上で設定可能なグループ分け

Endpoint Central では、以下の 3 つの方法でグループ分けが可能です。

(A) リモートオフィス/ローカルオフィス

エージェントが所属する基本的な単位として、「リモートオフィス」と呼ばれる集まりを設定できます。リモートオフィスは複数設定することができ、各エージェントはいずれか 1 つのリモートオフィスに所属するか、またはいずれのリモートオフィスにも所属しません。リモートオフィスに所属しないエージェントは、「ローカルオフィス」と呼ばれる集まりに所属します。

一例として、Endpoint Central サーバーと同一 LAN 内（例えば本社・本店）で使用する管理対象端末を「ローカルオフィス」に所属させます。VPN を使用するなど、WAN を経由して接続する端末については、各拠点（支社・支店など）ごとに「リモートオフィス」を設定することによって区別します。また、本社・本店で使用する管理対象端末の台数が多い場合、本社・本店をいくつかの仮想的な支社・支店に分割し、それぞれを「リモートオフィス」として設定します。

メモ：在宅勤務用の PC など、会社・組織のネットワークの外に置かれている端末に対して、VPN などを使用せずにインターネット経由で管理を行う場合には、管理上の分かりやすさのためリモートオフィスの設定を行うことに加えて、セキュリティ確保のため、Endpoint Central サーバーとインターネットとの間に「セキュアゲートウェイサーバー」（有料）を設置することをご検討ください。

セキュアゲートウェイサーバーの詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2029

それぞれのリモートオフィスに対して、任意で「配信サーバー」を 1 つ設置することができます。

配信サーバーには、Endpoint Central サーバーが持つファイルの一部が複製されます。管理対象の各端末に対してパッチやソフトウェアなどの配布を行う際、エージェントは必要なファイルを配信サーバーから取得できるようになるため、Endpoint Central サーバーにエージェントからのアクセスが集中することが防止され、また、WAN の帯域幅の消費が軽減される効果が期待できます。

配信サーバーの詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1643

なお、リモートオフィスの作成と配信サーバーのインストールについては [5-3](#) で説明します。

(B) ドメイン/ワークグループ

管理対象端末をグループ分けする手段として、端末が所属しているドメインごと、あるいはワークグループごとに、1 つの集まりとして見なすことができます。

なお、ドメイン・ワークグループに関する設定については [5-5](#) で説明します。

(C) カスタムグループ

リモートオフィス・ローカルオフィスやドメイン・ワークグループに加えて、さらに柔軟な管理を実現するために「カスタムグループ」と呼ばれる集まりを設定することができます。複数のリモートオフィス・ローカルオフィスにまたがるカスタムグループや、複数のドメイン・ワークグループにまたがるカスタムグループを設定することも可能です。

5-4 エージェントのインストール を実施した後、以下のナレッジを参考に任意でカスタムグループを作成します。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1097

4 - 2 グループ分けの活用

Endpoint Central を利用してパッチやソフトウェアなどを配布する際には、上記 A～C のグループ分けのほか、マシンの種類（デスクトップ、ノート PC など）や IP アドレスの範囲などを指定して配布対象を絞り込むことも可能です。ドメイン認証情報の登録（→ **5-5-2** または **5-5-3**）が済んでいる場合、サイト・OU・グループ（AD グループのことです）を用いて配布対象を絞り込むことができます。

配布対象の設定

5 エージェントのインストールおよび関連する設定

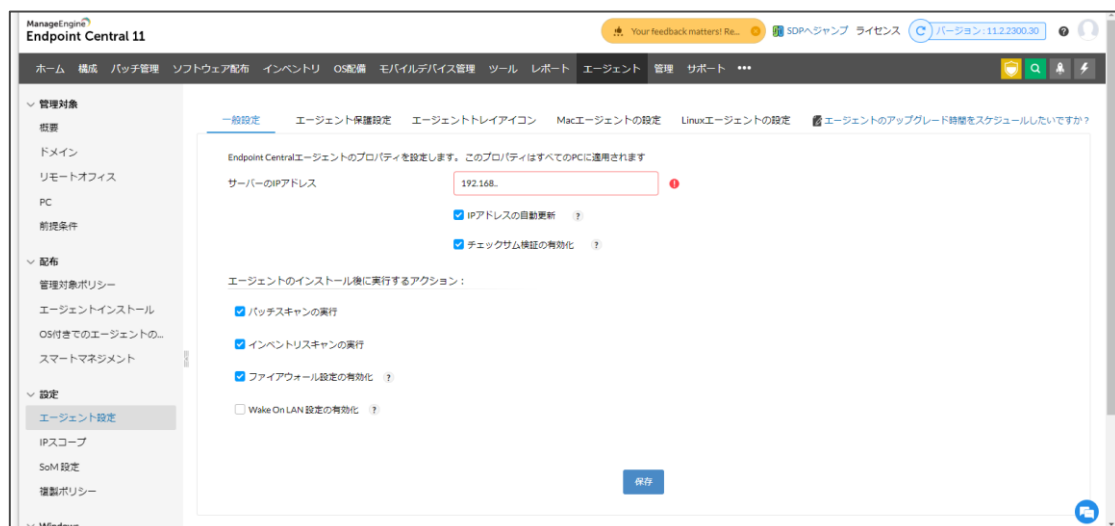
Endpoint Central は、エージェント型のエンドポイント管理ソフトウェアです。そのため、管理対象コンピュータにはエージェントをインストールする必要があります。エージェントはスキャンの実行、スキャン結果のサーバーへの送信、設定した構成のサーバーからの取得と反映、パッチやソフトウェアのインストール実行などを担う、軽量のソフトウェアです。

この章では、エージェントのインストール方法について説明します。多数の管理対象へエージェントをインストールするにあたって、いくつかの簡単なインストール方法が用意されています。環境によってはインストールできない場合があるため、複数の方法を試すことをお勧めします。

5-1 エージェント設定（一般設定/エージェント保護設定/エージェントトレイアイコン）

[管理]タブ → SoM 設定 → [エージェント設定] を開き、必要に応じて設定を変更します（デフォルトの状態でもご使用可能ですが、要件に応じて各設定を変更します）。詳細は次のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3440



エージェント設定

- 「一般設定」小タブで、IP アドレスの自動更新にチェックが入っていることを確認します。
この項目がオンになっていると、Endpoint Central サーバーの IP アドレスが変更された際、エージェントが自動的に新しいサーバーIPを検出し、更新します。この項目をオフにした状態で Endpoint Central サーバーの IP が変更された場合、サーバーとエージェントとの通信が失敗します。
- 「エージェント保護設定」小タブで、エンドユーザーによるエージェントのアンインストールを禁止したり、サービス停止を禁止したりする設定が可能です。必要に応じて、有効化/無効化します。

- 「エージェントトレイアイコン」小タブで、トレイアイコンを管理対象端末上に表示させるかどうかを選択できます。トレイアイコンを有効化すると、構成の適用、スキャンの実施、トラブルシューティングツール、セルフサービスポータルといった機能を、管理対象端末上での操作によってご利用いただくことが可能になります。
- 「Mac エージェントの設定」「Linux エージェントの設定」は [5-5-4](#) で説明します。

5-2 複製ポリシーの作成

エージェントのインストール時には、[4-1 \(A\)](#) で説明したリモートオフィス/ローカルオフィスを指定する必要があります。リモートオフィスの設定を行うためには、「複製ポリシー」を指定する必要があります。複製ポリシーは、Endpoint Central サーバーと配信サーバーとの間の通信について設定するためのポリシーです。配信サーバーを設置しないリモートオフィスの場合、複製ポリシーは Endpoint Central サーバーと各エージェントとの間の通信について制御する役割をもちます。

(なお、リモートオフィスを作成せずローカルオフィスのみで端末を管理する場合、複製ポリシーの作成は不要です。)

複製ポリシーを新規に作成する方法は以下のとおりです。

1. **[管理]タブ** → **SoM 設定** → **[複製ポリシー]**ページを開きます。
2. データ転送率を制限したい場合、値を選択します。値は「キロバイト/秒」の単位で指定可能です。
3. レプリケーション間隔の項目で、配信サーバーが Endpoint Central サーバーからファイルを複製する頻度を指定します。
作成した複製ポリシーを、配信サーバーを設置しないリモートオフィスに対して適用する場合、レプリケーション間隔の項目には任意の値を指定します。
4. その他必要な項目を指定し、「保存」をクリックします。

複製ポリシーの作成について、詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3810

複製ポリシーによる帯域の制限については、以下のナレッジも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=6326

5-3 リモートオフィスの作成と配信サーバーのインストール

この節では、リモートオフィスの作成を行います。また、配信サーバーを設置する場合、配信サーバーのインストールも行います。

なお、リモートオフィスの設定と同時に配信サーバーおよびエージェントのインストールを行う場合、あらかじめ [5-5-2](#) の手順に従ってドメイン・ワークグループの資格情報を登録する必要があります。

ただし、より推奨される方法としては、まずリモートオフィスの作成のみを行い、あとから配信サーバーやエージェントのインストールを行います。この方法には、対象端末との通信の不調に対処しやすいという利点があります。また、ドメイン・ワークグループの情報が未登録でもリモートオフィスの設定を完了させることができます。

リモートオフィスを新規に作成する方法は以下のとおりです（主な項目のみ説明します）。

1. [エージェント]タブ → 管理対象 → [リモートオフィス]ページを開き、[+リモートオフィスの追加] をクリックします。
2. 「通信の詳細」の項目中、「通信タイプ」では「配信サーバーによる」または「直接通信」を選択します。

リモートオフィスの新規作成

3. 「配信サーバーによる」を選択した場合、配信サーバーをインストールする端末の PC 名や IP アドレスなどを入力します。
4. 「複製ポリシー」の項目で、**5-2** で作成した複製ポリシーを選択します。
5. プロキシを経由して通信を行う場合、「プロキシ設定」に必ずチェックを入れ、必要な項目を入力します。エージェントのダウンロード（エージェントのインストールのために行う、必要な実行ファイルのダウンロード）の後に、この「プロキシ設定」の項目を編集しても、そのエージェントには反映されません。

リモートオフィスの新規作成

6. 「リモートエージェントのインストール」の各項目にチェックを入れると、リモートオフィスの作成と同時に配信サーバー・エージェントのインストールを実行することができます。この場合、あらかじめ登録しておいたドメインの資格情報を選択します。

リモートオフィスの作成のみを行い、あとから配信サーバー・エージェントのインストールを実行する場合、チェックを外しておきます。

- 「管理中の PC」の項目では、リモートオフィスの設定と同時にエージェントのインストールを行いたい場合に限り、「+PC の追加」をクリックします。これにより、エージェントをインストールしたい対象端末を指定することができます。この場合、**5-4 (F)** **コンソール画面上から実行するインストール** と同様の UI により、端末を指定します (**5-4 (F)** で説明する前提条件を満たしていることが必要です)。リモートオフィスの新規作成のみを行い、エージェントのインストールはあとから行う場合、「管理中の PC」は空欄のままにしておきます。



リモートオフィスの新規作成

- 以上の内容を確認し、「追加」ボタンをクリックします。

以上でリモートオフィスの新規作成が完了します。

リモートオフィスの作成手順について、以下のナレッジも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1669

リモートオフィスの新規作成が完了したら、配信サーバーを使用するリモートオフィスの場合はエージェントのインストールに先立って配信サーバーのインストールを行います。

配信サーバーをインストールする方法は以下のとおりです。

- [エージェント]タブ → 管理対象 → [リモートオフィス]ページを開き、作成したリモートオフィスの「配信サーバー」アイコンをクリックします。exe ファイルがダウンロードされます。**



配信サーバーのダウンロード

2. ダウンロードした exe ファイルを、配信サーバーをインストールしたい端末に SFTP 等を用いて送付します（または、上記 1. の手順の際、対象端末上から直接コンソール画面にアクセスし、ダウンロードを行います）。
3. 配信サーバーをインストールする端末上で、exe ファイルを管理者権限で実行します。

以上で配信サーバーのインストールが完了します。なお、配信サーバーのインストール後、以下のナレッジをご参照の上、ご使用のアンチウイルスソフト等において、配信サーバーのインストールディレクトリをスキャン（ウイルス検知）の対象から除外するように設定してください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1545

5-4 エージェントのインストール

管理対象端末にエージェントをインストールします。エージェントをインストールする方法はいくつかありますが、この節では主要なインストール方法を各 OS について説明します。

(A) 手動でのインストール（Windows）

Windows 端末に対して 1 台ずつエージェントをインストールするには、以下の方法を利用します。対象となる端末の台数が比較的少ないときに利用する方法です。

1. **[エージェント]タブ → 管理対象 → [PC]ページ**を開き、右上の「エージェントをダウンロードする」をクリックします。



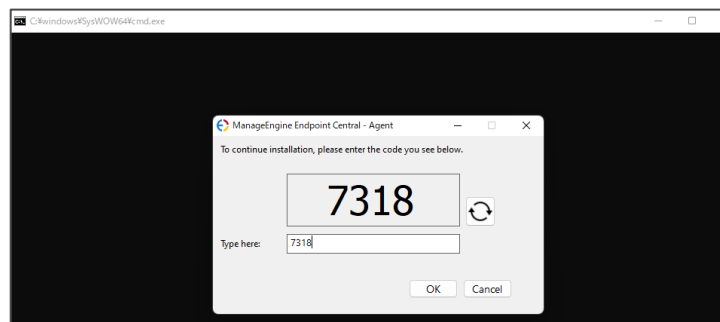
エージェントのダウンロード

2. 対象のリモートオフィスを選択します。なお、エージェントをいずれのリモートオフィスにも所属させない場合、「Local Office」を選択します。
3. 「インストール」の項目で「エージェント」が選択されていることを確認します。（この画面に「Endpoint Central DS」が表示されている場合、DS とは配信サーバー(=Distribution Server)のことを表しています。ここではエージェントのダウンロードを行うため、「エージェント」を選択します。）
4. Windows が選択されていることを確認し、ダウンロードします。exe ファイルがダウンロードされます。



エージェントのダウンロード

5. ダウンロードした exe ファイルを、エージェントをインストールしたい端末に SFTP 等を用いて送付します（または、以上の手順の際、対象端末上から直接コンソール画面にアクセスし、ダウンロードを行います）。
6. エージェントをインストールする端末上で、exe ファイルを管理者権限で実行します。
7. 以下のような画面が表示された場合、表示された 4 桁のパスコードを入力します。画面の案内に沿ってインストールを進めます。



確認画面（パスコード入力）

以上でエージェントのインストールが完了します。

(B) グループポリシー（GPO）を利用したインストール（Windows）

Active Directory 環境では、以下の方法により複数の Windows 端末に対して一度にエージェントインストールを実行することができます。

1. **[エージェント]タブ → 配布 → [エージェントインストール]ページを開きます。[Active Directory を利用する]小タブが選択されていることを確認し、「GPO」の項目の「エージェントをダウンロードする」をクリックします。**



エージェントのダウンロード（GPO によるエージェントインストール）

2. 対象のリモートオフィスを選択します。なお、ローカルオフィスで端末を管理する場合は「ローカルエージェント」を使用します。
3. 必要なスクリプトを以下のナレッジからダウンロードし、実行します。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=6888

以上でエージェントのインストールが完了します。

(C) 手動でのインストール（Mac）

Mac 端末に対して 1 台ずつエージェントをインストールするには、以下の方法を利用します。

1. 上記の「(A) 手動でのインストール（Windows）」と同様に、エージェントのダウンロード画面へ進みます。Mac を選択してエージェントをダウンロードすると、zip ファイルがダウンロードされます。
2. 対象端末上で zip ファイルを解凍します。
3. 解凍して得られた pkg ファイルを実行します。

以上でエージェントのインストールが完了します。

(D) スクリプトによるインストール（Mac）

配信サーバーを設置しているリモートオフィスの場合、スクリプトを実行することによって複数台の Mac 端末へのエージェントインストールを一度に実行することができます。

1. 対象となるすべての Mac 端末に、あらかじめ sshpass をインストールします。
2. 上記「(C) 手動でのインストール（Mac）」と同様にエージェントをダウンロードします。
3. 必要なスクリプトや、その他手順の詳細について以下のナレッジを確認し、実行します。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=840

以上でエージェントのインストールが完了します。

(E) 手動またはツールによるインストール (Linux)

Linux 端末へのエージェントインストールは、以下の要領で行います。

1. [5-5-4 エージェント設定](#) を参照し、Linux の管理設定を済ませておきます。
2. 上記「(C) 手動でのインストール (Mac)」と同様にして、Linux 用のエージェントをダウンロードします。
3. 手動で対象端末 1 台ずつにエージェントをインストールしたり、ツールを用いて複数台の Linux 端末へ一度にエージェントをインストールしたりすることが可能です。

Linux 端末へのエージェントインストールについて、詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1220

(F) コンソール画面上から実行するインストール (Windows/Mac/Linux)

コンソール画面上の操作のみでエージェントをインストールすることも可能です。ただし、以下に示すいくつかの前提条件を満たす必要があります。

- 対象端末において、必要なポートが解放されていること。
- Mac 端末および Linux 端末にエージェントをインストールする場合、対象端末で SSH 接続が許可されていること。
- 対象端末の PC 名を指定して行うインストール方法のため、名前解決ができる環境であること。
- [5-5-2](#) または [5-5-3](#) の方法によって、ドメイン・ワークグループの資格情報があらかじめ登録されていること。
- [5-5-4 エージェント設定](#) によって、プッシュインストールのための資格情報があらかじめ指定されていること。

その他、詳細な前提条件は以下のナレッジをご覧ください。

(Windows) https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=8745

(Mac) https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=840

(Linux) https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1220

前提条件を満たしている場合、以下の方法によりエージェントのインストールを行うことができます。

1. **[エージェント]タブ → 管理対象 → [PC]ページを開き、「+ PC の追加」をクリックします。**



PC の追加

2. ドメイン・ワークグループを選択し、対象となる PC を指定します。なお、次のような画面が表示される場合は、右上の「コンピューターの手動追加」をクリックし、各 PC 名を入力します。



手動追加

3. リモートオフィスを選択し、「エージェントをインストール」をクリックします。

以上でエージェントのインストールが完了します。

5-5 ドメイン・ワークグループに関する設定

5-5-1 ドメイン・ワークグループの自動的な検出

5-4 エージェントのインストール の(A)～(D)の方法でエージェントをインストールすると、Endpoint Central は対象端末が参加している Active Directory ドメイン、またはワークグループを自動的に検出します。

Endpoint Central 上でまだ検出・登録されていない、新しい Active Directory ドメインが検出された場合、Endpoint Central 上ではそのドメイン名と同名のワークグループとして扱われます。この場合、**5-5-3** で説明する方法により、後からドメインとしての扱いに変更することができます（変更は必須ではありません）。

5-5-2 ドメイン・ワークグループの手動登録

通常の場合、ドメイン・ワークグループを手動で登録する必要はありません。(A)～(D)の方法によるエージェントインストールをまだ行ったことがない状態で **5-4 (F) コンソール画面上から実行するインストール** を利用する場合などは、ドメイン・ワークグループを手動で登録します。

1. **[管理]タブ** → **グローバル設定** → **[ドメイン]ページ**を開きます
2. 画面左上の「+ ドメインの追加」をクリックし、必要な項目を入力します。

以上でドメイン・ワークグループを手動で登録できます。

5-5-3 ドメイン・ワークグループの登録情報の編集（資格情報の登録）

パッチやソフトウェアの配布対象としてサイト・OU・グループ（AD グループ）を指定したい場合、あらかじめドメインの資格情報を登録しておく必要があります。また、**5-4 (F) コンソール画面上から実行するインストール** を利用する場合、ドメインまたはワークグループの資格情報が必要です。これらの場合、**5-5-1** で自動的に検出されたワークグループに対して、情報を編集します。

1. **[管理]タブ → グローバル設定 → [ドメイン]ページを開きます**
2. 情報を編集したいワークグループについて、「アクション」列の三点リーダーをクリックします。
3. 「変更」をクリックします。



ドメイン・ワークグループの登録情報の編集

4. Active Directory ドメイン環境の場合、「ネットワークタイプ」を「Active Directory」に切り替えたうえで、必要事項を入力します。ワークグループ環境の場合、管理対象端末すべてに共通して管理者権限を持つユーザー名とそのパスコードを入力します。入力後、「ドメインの詳細情報を更新する」をクリックします。

ドメイン情報の編集

ドメイン名: WORKGROUP1

ネットワークタイプ: ☒ Active Directory ☐ ワークグループ

ドメインユーザ名: admin

パスワード: [masked]

ADドメイン名: --

ドメインコントローラー名: --

☐ LDAP SSLを使用 ?

ドメインの詳細を更新する キャンセル

ドメイン情報の編集

ドメイン名: WORKGROUP1

ネットワークタイプ: ☐ Active Directory ☒ ワークグループ

管理者のユーザ名: admin

パスワード: [masked]

DNSサフィックス:

ドメインの詳細を更新する キャンセル

ドメイン情報の編集

以上で、ドメインやワークグループの資格情報を登録できます。

5-5-4 エージェント設定（Mac エージェントの設定/Linux エージェントの設定）

[管理]タブ → SoM 設定 → [エージェント設定] を開き、必要に応じて設定を変更します。

- 「Mac エージェントの設定」の項目は、通常は入力する必要はありません。ただし、[5-4 \(F\) コンソール画面上から実行するインストール](#) を利用する場合、資格情報を追加します（あらかじめ、ドメイン・ワークグループの資格情報の登録（→ [5-5-2](#) または [5-5-3](#)）を済ませておく必要があります。）
- 「Linux エージェントの設定」の項目を編集します。「ネットワーク上の Linux の管理設定」の項目は必須項目です。デフォルトでは「linuxosgroup」という名前の仮想的なワークグループが用意されているため、特に問題ない場合「linuxosgroup」を選択して「保存」をクリックします。この場合、[5-4 \(E\) 手動またはツールによるインストール（Linux）](#) でインストールした端末は、既定ですべて「linuxosgroup」に所属するものとして扱われます。所属先を変更したい場合、ドメイン・ワークグループを指定します。
- 「Linux エージェントの設定」の項目のうち、「エージェントのプッシュインストールに利用する資格情報を指定してください」の項目は任意で入力します（Mac エージェントの設定と同様です）。

5-6 エージェントのインストール後に行う設定

各方法によりエージェントがインストール完了したら、以下のナレッジをご参照の上、ご使用のアンチウイルスソフト等において、エージェントのインストールディレクトリをスキャン（ウイルス検知）の対象から除外するように設定してください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1545

エージェントのインストール後、[4-1 \(C\)](#) で説明したとおり、カスタムグループを作成することで、端末を柔軟にグループ分けすることができます。

また、Endpoint Central を利用する中で、エージェントが所属するリモートオフィスを変更する必要が発生した場合、「IP スコープ」の機能を利用します。IP スコープの詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3535

5-7 エージェントのアンインストール

エージェントがインストールされた端末を、一時的または恒久的に Endpoint Central による管理の対象から外す場合、エージェントをアンインストールします。

なお Endpoint Central では、エージェントがインストールされている端末の台数が課金対象の要素となっています。

ライセンスの消費を解消するには、以下の 2 つの条件のいずれかが満たされる必要があります。

- ・ 対象端末の情報をコンソール画面上から削除する
（または）
- ・ エージェントがアンインストール済みであることがコンソール画面上に表示される

エージェントのアンインストール（ならびに、コンソール画面上からの削除）の詳細な方法は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1157

6 その他の初期設定

この章では、任意で利用するいくつかの設定項目をご紹介します。

(A) データベースのスケジュールバックアップ

Endpoint Central には、データベースを定期的にバックアップする機能があります。

1. [管理]タブ → [データベースの設定] → [データベースのバックアップ] をクリックします。
2. バックアップを作成する時刻、保持するバックアップの数、保存先などを入力し、[保存]をクリックします。
3. 保存先に共有フォルダーを指定した場合は、Endpoint Central サーバーからのアクセスと書き込みが可能となるよう、対象の共有フォルダーにおいて「フルコントロール」の権限を指定します。

メモ：バックアップを手動で取ることも可能です。また、バックアップをリストアする場合は、バックアップファイルと Endpoint Central サーバーのビルド番号を一致させる必要があります。詳細は、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=860

データベースのバックアップをスケジュールする

毎日、次の時刻で :

00:01:00

[hh:mm:sec] [24時間形式]

最新

:

7

▼

バックアップのみ

バックアップディレクトリ

:

C:\ManageEngine\DesktopCentral_Serv

①

DCサーバーに障害が発生した場合にシームレスにバックアップを復元できるように、リモートロケーションにデータベースを保存することをおすすめします。

☒ データベースのバックアップが失敗した場合、通知する

メールアドレス :

[メールサーバーが設定済みであることを確認してください]

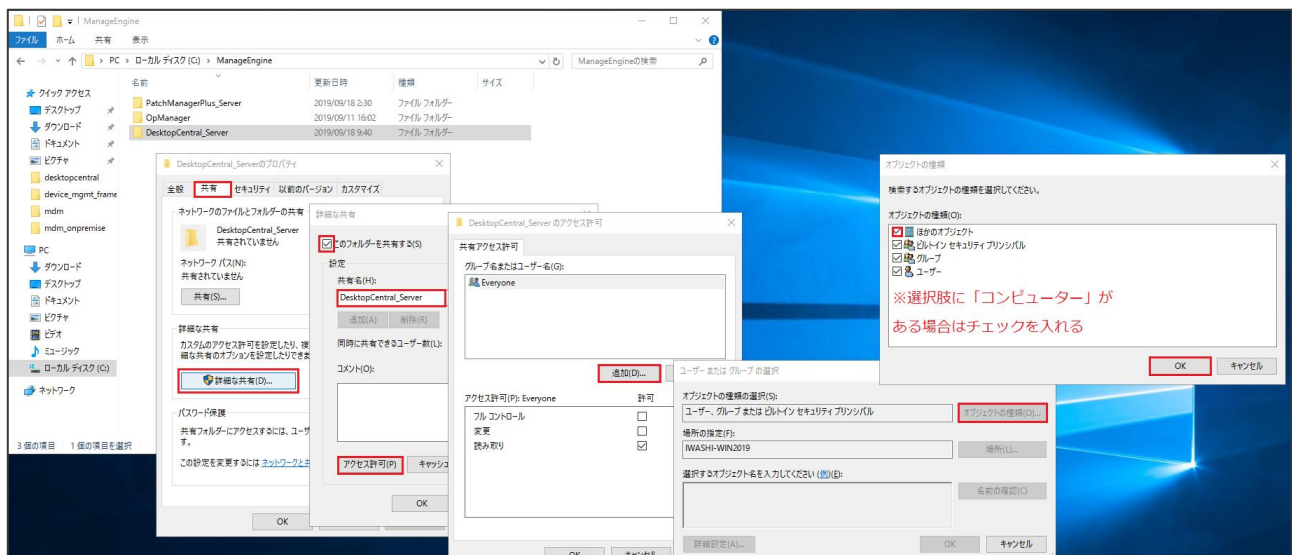
[複数の電子メールIDはカンマで区切る必要があります]

☐ パスワードを設定してバックアップの安全を確保してください

保存

キャンセル

DB バックアップのスケジュール設定



共有フォルダーへのアクセス許可設定の例

(B) サーバーメンテナンス

Endpoint Central サーバーのメンテナンスについて、スケジュール設定が可能です。DB 内の全テーブルの再インデックス化（“データベースのメンテナンス”）および不要となった古いファイルの削除（“サーバーの最適化”）を自動的に実行します。なお、実施に際しては、以下 **注意事項** をご確認の上、ナレッジもあわせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1000

<注意事項>

- ・ サーバーメンテナンスは毎週実施することを推奨します。また、メンテナンスプロセスは中断しないようにご注意ください。
- ・ サーバーメンテナンス中、Endpoint Central は一時的にサービスがダウンします。そのため業務時間外の時間帯での実施を推奨します。サーバーメンテナンスが開始されると Endpoint Central サービスが自動的に停止し、メンテナンス終了後自動的にサービスが起動されます。所要時間は環境にもよりますが、平均して 30 分程度必要です。
- ・ MSSQL データベースを利用している場合は、データベースのメンテナンスのみを有効化してください。

1. [管理]タブ → [サーバ設定] → [サーバーメンテナンス]をクリックして開き、サーバーメンテナンスの有効化にチェックを入れます。
2. メンテナンスを実施する週・曜日・開始時刻を入力します。必要に応じて“メンテナンス前に毎回通知”にチェックを入れ、メールアドレスを入力します。実行するタスクで必要なものにチェックを入れ、[保存]をクリックします。

サーバーとデータベースのパフォーマンスを改善するためには、毎週サーバーメンテナンスを実行してください。 [詳細](#)

☒ サーバーメンテナンスの有効化

メンテナンスに選んだ週 : ☒ 最初 ☒ 第二 ☒ 第三 ☒ 第四 ☒ 最後

メンテナンスに選んだ日 :

開始 : [24時間形式]

☒ メンテナンス前に毎回通知

メールアドレス :

現在のサーバー時刻: 11/19/2019, 16:41:22

考慮する点

- ▶ メンテナンス作業は **業務時間外** にスケジュール設定することをお勧めします。
- ▶ Desktop Centralのサーバーは、メンテナンスのプロセス中、一時的に**停止**します。
- ▶ **メンテナンスプロセスを中断することはお勧めしません。**

実行するタスク

- ☒ データベースのメンテナンス ?
- ☒ サーバーの最適化

メンテナンスの設定

(C) Active Directory との同期

Active Directory 上にコンピューターオブジェクトが追加/削除された際の動作を指定、または同期するドメイン/OU の指定や同期スケジュールを指定できます。詳細は、[管理]タブ → SoM 設定 → [管理対象ポリシー]ページ をご覧ください。

(D) パッチのクリーンアップ設定

Endpoint Central は、配布するパッチを Endpoint Central サーバーに保存するため、パッチファイルが蓄積されてフォルダサイズが大きくなることがあります。パッチのクリーンアップを有効にすると、毎朝 5 時にクリーンアップが実行され、使用しないパッチや一定期限の過ぎたパッチを定期的に削除します。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1571

1. [管理]タブ → [パッチ設定] → [クリーンアップ設定] をクリックして開きます。
2. 必要に応じてチェックを入れ、[保存]をクリックします。

パッチ	依存パッケージ	設定	パッチのアップロード
<p>パッチ保存場所を配信サーバーに移動させる方法は？</p>			
<p>ダウンロード設定</p> <p>パッチリポジトリ: C:\ManageEngine\DesktopCentral_Server\webapps\DesktopCentral\store</p> <p><input type="checkbox"/> パッチリポジトリが次で指定した容量以上になった場合に通知 30 GB [現在の利用容量: 25.68 GB]</p>			
<p>クリーンアップ設定</p> <p>パッチリポジトリから不要なパッチを削除する処理を自動化し、ディスク空き容量を増やします。Desktop Centralサーバーから削除されたパッチは、次のレプリケーション間隔で自動的に配信サーバーから削除されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 更新済みパッチを削除する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 次より古いパッチを削除 6ヶ月 <small>[[※対象のパッチがコンピューター上で欠落している場合は削除されません。]]</small></p> <p>注記：クリーンアップ処理は毎朝5時に行われます</p>			
<p>保存 キャンセル</p>			

パッチのクリーンアップ

(E) セキュリティ設定

Endpoint Central のセキュリティをより強固にするために、様々な設定項目があります。詳細は、[管理]タブ → [セキュリティ設定] → [セキュリティ設定]ページおよび以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2629

(F) ManageEngine Endpoint Central API について

ManageEngine Endpoint Central は、ManageEngine ServiceDesk Plus をはじめ、他の製品との API 連携が可能です。API については、[管理]タブ → [統合化] の各項目と合わせ、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4157

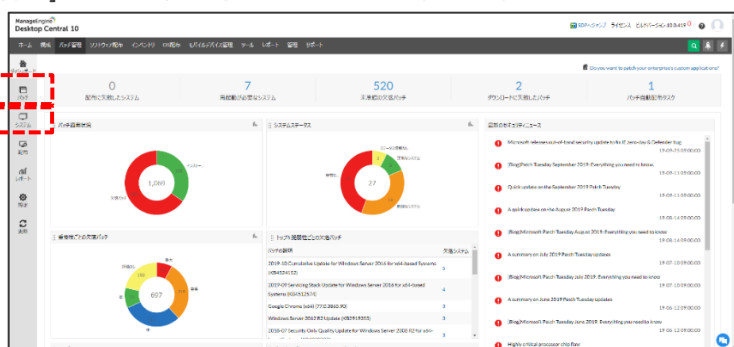
■ 活用編

7 パッチ管理

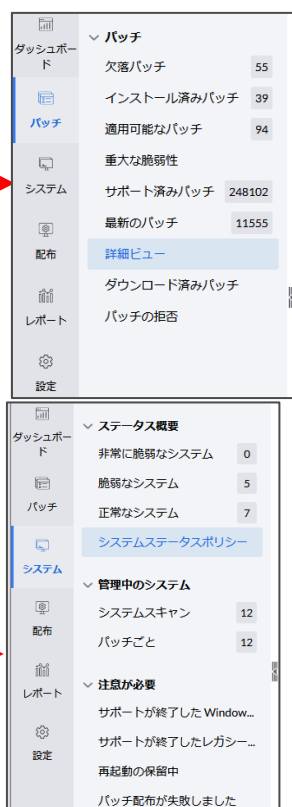
この章ではパッチ管理について説明します。[パッチ管理]タブより、各種機能がご利用いただけます。

7-1 パッチ管理タブの概要

[パッチ管理]タブでは、各端末でのパッチの適用状況を確認したり、パッチの配布を設定したりすることができます。



パッチ管理タブ



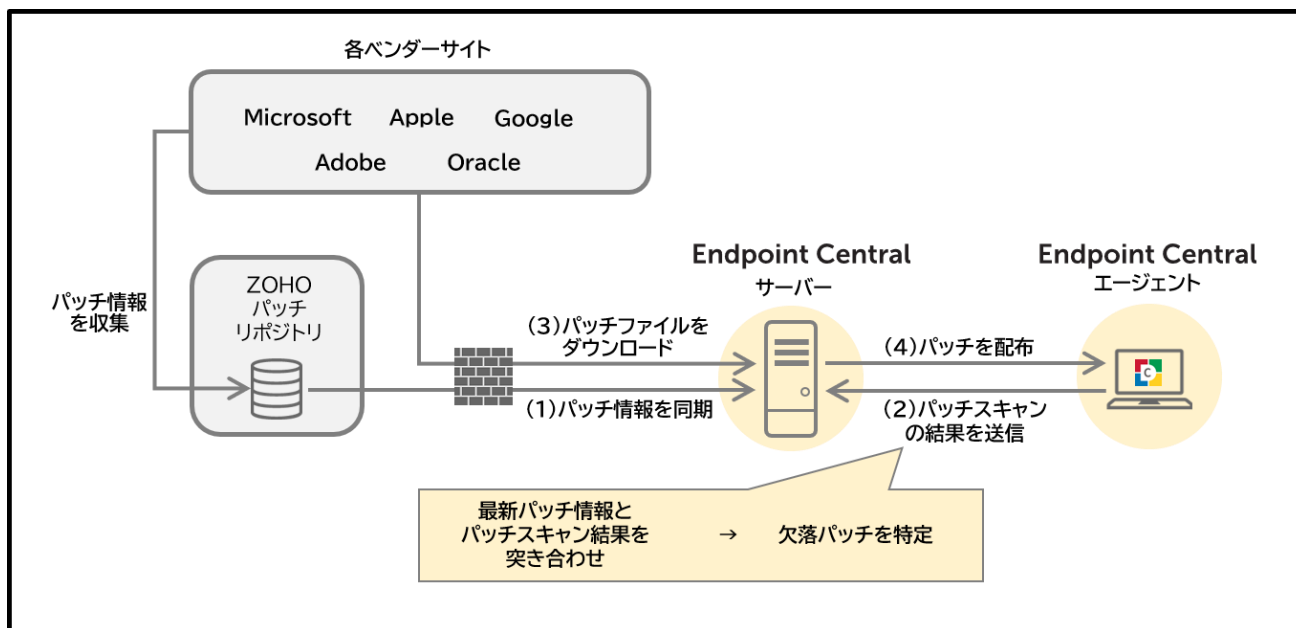
[パッチ]左メニュー ...パッチごとにインストール状況を確認できます。

- ・ **欠落パッチ**...あるパッチが、その対象端末のうち少なくとも1台において未適用となっている場合、そのパッチは「欠落パッチ」として表示されます。
- ・ **インストール済みパッチ**...あるパッチが、その対象端末のすべてにインストールされている場合、そのパッチは「インストール済みパッチ」として表示されます。
- ・ **適用可能なパッチ**...Endpoint Central エージェントをインストール済みの端末に対して、適用することができる（すでに適用済みの場合も含む）すべてのパッチが表示されます。したがって「適用可能なパッチ」は、「欠落パッチ」の表示内容と「インストール済みパッチ」の表示内容を合わせたものです。
- ・ **サポート済みパッチ**...Endpoint Central で管理可能なパッチの一覧です（Endpoint Central エージェントが実際にインストールされている端末にかかわらず、「サポート済みパッチ」には当製品で扱うことのできるすべてのパッチが表示されます。例えば Windows 10 の端末のみを管理している場合でも、Windows 11 のパッチも表示されます）。
- ・ **最新のパッチ**...サポート済みパッチのうち、最新版の一覧です。

[システム]左メニュー ...端末ごとのインストール状況を確認できます。

[システムステータスポリシー]で基準を設定することにより、管理対象端末が[非常に脆弱なシステム] [脆弱なシステム] [正常なシステム]の3つに分類されます。

7-2 パッチ管理の流れ（概要）



パッチ管理のアーキテクチャ

Zoho ではパッチ情報を収集した **Zoho パッチリポジトリ** を管理しています。Endpoint Central は、以下のような流れでパッチの管理を実現します。

(1)Endpoint Central サーバーが Zoho パッチリポジトリと定期的に同期することで最新のパッチの情報を入手します。

(→ [7-4](#))

(2)各端末でのパッチのインストール状況がスキャンされます。最新のパッチ情報と突合され、欠落しているパッチが特定されます。

(→ [7-5](#))

(3)Endpoint Central サーバーは必要なパッチを各ベンダーサイトから自動的にダウンロードします。

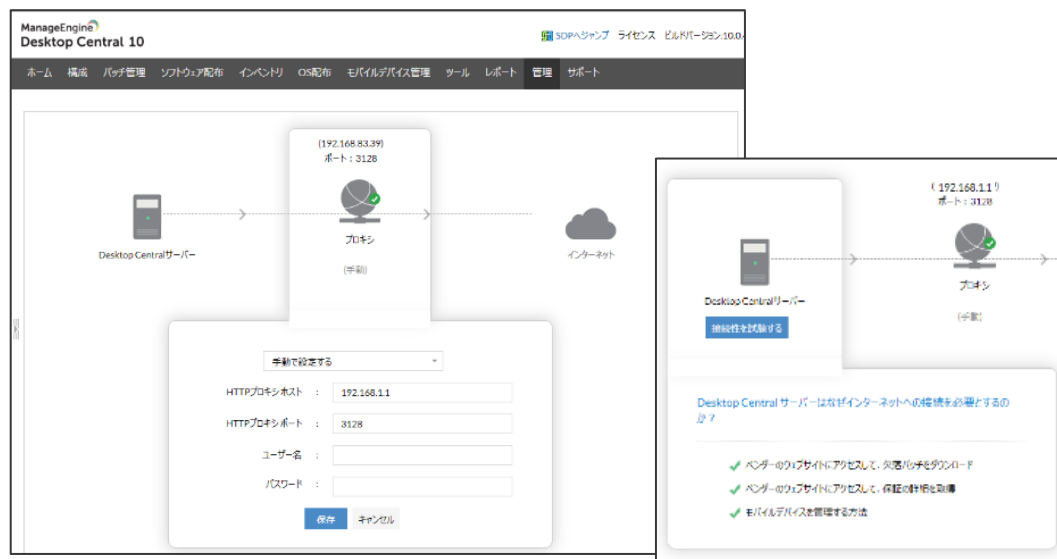
(4)管理者の指定した日時・条件にもとづいて対象にパッチを配布します。(→ [7-7](#), [7-8](#), [7-9](#))

7-3 プロキシ設定

Endpoint Central はパッチのベンダーの Web サイトや Zoho パッチリポジトリと通信してパッチの実行ファイルや関連する情報をダウンロードするため、通常の構成ではインターネット接続を必要とします。インターネットへ接続する際にプロキシを経由する場合は、プロキシの設定が必要です。以下のナレッジも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=760

1. [管理]タブ → パッチ設定 → [プロキシ設定] → “プロキシ”をクリックし、“手動で設定する”を選択します。
2. HTTP プロキシホスト、HTTP プロキシポートを入力します。
3. “Endpoint Central サーバー” → [接続状態の確認] をクリックし、インターネット接続を確認します。



プロキシの設定

7 - 4 パッチ DB の設定

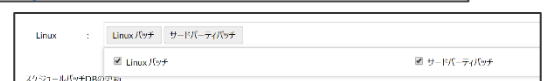
Zoho パッチリポジトリから取得するパッチ情報の種類や、同期する時刻の設定を行います。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2255

1. [管理]タブ → [パッチ設定] → [パッチ DB の設定] を開きます。
2. 必要に応じて Endpoint Central で管理するパッチの種類を選択します。デフォルトではすべての Windows パッチが選択されていますが、セキュリティの更新（Security Updates）や Feature Update（Feature Packs）など、特定の種類のみを指定することも可能です。サードパーティパッチや、Mac/Linux のパッチを管理する場合もここで選択します。



管理するパッチの種類の選択



3. **更新済みパッチの適用を有効化する** にチェックを入れると、最新版以外のパッチの適用が可能になります。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=6576

4. **スケジュール実行の有効化**にチェックを入れ、必要な項目を入力することで、最新のパッチの情報を定期的に取り得ることが出来ます。

なお、スケジュール設定した時刻以外でパッチ DB を更新する場合は、**[パッチ管理]タブ** → **[更新]ページ**を開き、**[更新]**をクリックします。

メモ：Red Hat パッチ管理には、**有効なサブスクリプションの認証情報の登録**と Red Hat マシンのカテゴリー（サーバー/ワークステーション/デスクトップ）ごとの「**指定システム**」の設定が必要です。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=992

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2624

メモ：パッチ DB に関しては、以下の情報も合わせてご確認ください。

・パッチ DB にパッチ情報が追加されるまでの時間について

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4866

メモ：Endpoint Central サーバーをインターネットに接続しない運用については、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=803

なお、この場合、管理するパッチの種類を変更することはできません（すべての種類が選択されている、デフォルトの状態をご利用ください）。

7 - 5 パッチスキャン

未適用となっているパッチ（欠落パッチ）を表示させたり、未適用のパッチが多く存在する端末（脆弱なシステム・非常に脆弱なシステム）を表示させたりするなど、パッチ適用状況を可視化するには、パッチスキャンを行う必要があります。

パッチスキャンを任意のタイミングで実行する場合、以下の手順で行います。

1. [パッチ管理]タブ → [システム] → [システムスキャン] を開きます。

The screenshot displays the ManageEngine Desktop Central 10 web interface. The top navigation bar includes links for Home, Batch Management, Software Distribution, Inventory, OS Distribution, Mobile Device Management, Tools, Reports, Management, and Support. The left sidebar contains icons for Dashboard, Batch, System, Distribution, and Reports, along with settings and update buttons. The main content area shows the 'System Scan' section, which includes a summary of scan results and a table of individual scan records.

System Scan Summary:

ステータス	回数
成功	20
失敗	1
未スキャン	2

System Scan Results Table:

PC名	ドメイン	最終スキャン時刻	最終スキャンステータス	最終スキャン成功時刻	OS
2g-sdp	linuxosgroup	19-11-13 09:43:35	スキャン失敗	--	Red Hat Enterprise Linux Server release 6.10 (Santiago)
AD360	ME-DEVELOP	19-11-14 09:54:33	スキャン完了	19-11-14 09:54:33	Windows Server 2016 Standard Edition (x64)

2. PC 一覧よりスキャンを行う対象にチェックを入れ、**【システムスキャン】**をクリックします。
3. スキャンが完了するとスキャン結果の概要が表示されます。各 PC 名をクリックすると、その PC に関するスキャン結果が表示されます。またパッチタブの各ページでは、パッチ単位で見た場合の各 PC の結果が表示されます。

3. スキャンが完了するとスキャン結果の概要が表示されます。各 PC 名をクリックすると、その PC に関するスキャン結果が表示されます。またパッチタブの各ページでは、パッチ単位で見た場合の各 PC の結果が表示されます。

パッチスキャン結果

システムスキャン | すべてスキャン

PC名	ドメイン	最終スキャン時刻	最終スキャン結果
2g-sdp	linuxosgroup	19-11-13 09:43:35	スキャン失敗
AD360	ME-DEVELOP	19-11-14 09:54:33	スキャン成功
AJI-WIN2016	me-develop	--	--

クリック

システムの詳細

名前: AD360
OS: Windows Server 2016 Standard Edition (64bit)
サービスパック: Windows Server 2016 Gold (64bit)
言語: 日本語
システムスタートアップ: 2019-11-13 17:44:30
最終スキャン時刻: 19-11-14 09:54:33

アップデート詳細

ID	名前	ベンダー	バージョン	ステータス	備考	配布時期	リリース	再スキャン
KB309071	SP-019	Microsoft	Microsoft .NET Framework 4.7.2 Runtime	最新	承認済み	--	19-08-28	必要
KB309070	SP-018	Microsoft	Microsoft .NET Framework 4.6.3 Runtime	最新	承認済み	--	19-04-23	必要
KB10447	YU-017	Google	Third Party Updates	最新	承認済み	--	19-11-07	必要
KB309071	SP-019	Microsoft	Microsoft .NET Framework 4.7.2 Runtime	最新	承認済み	--	19-08-28	必要

以上で説明したスキャン（手動パッチスキャン）については、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3858

自動的に実行されるスキャン（スケジュールパッチスキャン）については、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1517

7-6 配布ポリシー

配布ポリシーは、パッチを端末へ配布する曜日・時間帯や、配布前後の動作（ユーザーへの通知・ユーザーによる延期の許可・再起動）などについての設定です。複数のポリシーを登録しておくことで、柔軟な運用が可能になります。パッチやソフトウェアを配布する際は、必ず配布ポリシーを1つ選択します。仕様および手順は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1527

メモ：配布ポリシーの中で設定する「配布スケジュール」では、例えば「毎月第2・第3水曜日の18時から22時まで」というように、配布を行ってもよい曜日・時間帯を指定します。複数の曜日・時間帯を指定しておくことが可能なため、「業務時間外にパッチ配布を行いたい」といった、企業・組織での端末運用状況に合わせて、入力・指定します。

一方で、以降の節で説明する、配布構成・配布タスクの作成画面では、構成やタスクの開始日（※）と終了日を任意で設定できます。開始日・終了日を設定した場合、実際の配布は、開始日から終了日までの期間の中で、かつ、配布ポリシーで設定した配布スケジュールの曜日・時間帯を満たしているタイミングにおいて、実行されます。

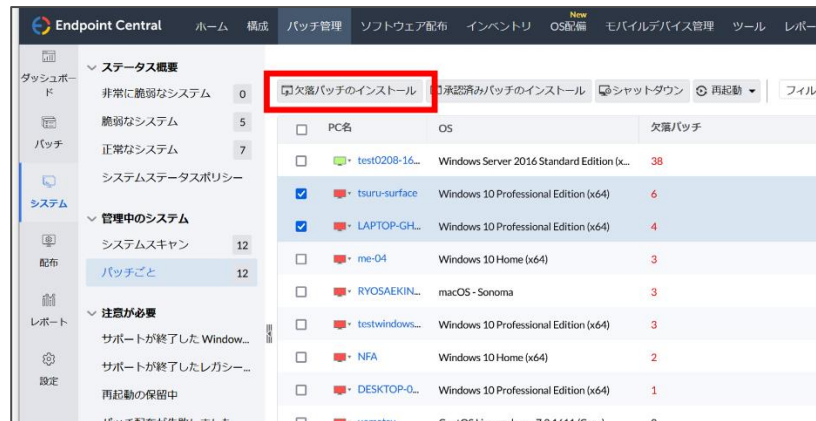
※ 自動配布の場合、開始日は「何月何日」という絶対的な形式ではなく、リリース/承認からの経過日数を指定します。詳細は [7-8 パッチの自動配布（パッチ配布の自動化）](#) をご覧ください。

7-7 パッチの手動配布

パッチを1つずつ確認して適用する運用の場合や、任意の（不定期的な）タイミングでコンソール画面を開き、何台かの端末を選択してその時点で未適用となっているパッチをまとめて適用する場合、「手動配布」を利用します。

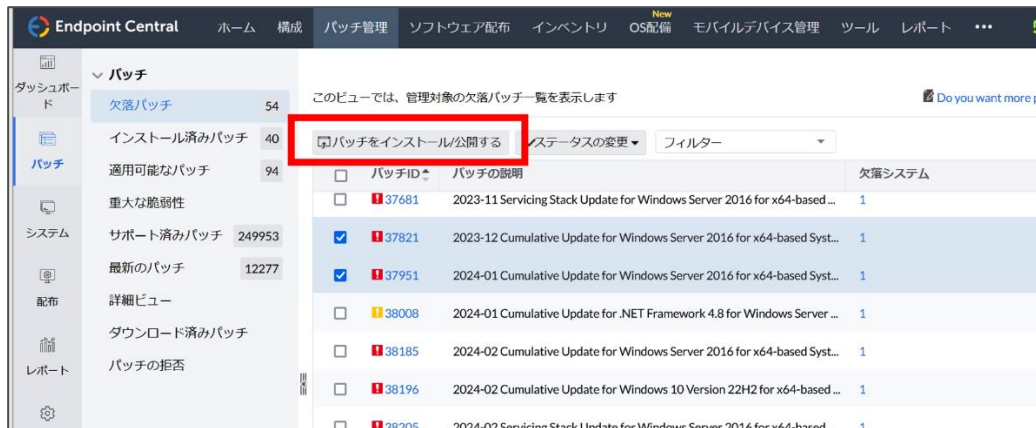
手動配布は、以下の手順で行います。

1. 配布を行うための「構成」の作成画面を立ち上げます。構成の作成画面を立ち上げる方法は何通りか存在しますが、主な方法としては、以下の(A)または(B)を利用します。
 - (A) [パッチ管理]タブ → [システム] → 管理中のシステム → パッチごと をクリックします。配布対象となるPCにチェックを入れ、[欠落パッチのインストール]をクリックします。
なお、ここで[承認済みパッチのインストール]をクリックすると、承認ステータスが「承認済み」のパッチのみを適用できます。承認ステータスについては [7-10](#) をご覧ください。



PC を選択して適用可能なパッチを複数配布する方法

- (B) [パッチ管理]タブ → [パッチ] → [欠落パッチ] をクリックします。配布を行うパッチにチェックを入れ、[パッチをインストール/公開する]をクリックします。



パッチを選択して適用可能な複数の PC へ配布する方法

メモ：対象の PC、または対象のパッチを選択する際には、フィルターを利用したり、検索したりすると効率的です。フィルターの作成や検索は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4093

- 「構成」の作成画面が立ち上がったら、構成に分かりやすい名前をつけます。表示されたパッチのうち、配布を取りやめるものがあればアクション列の「×」をクリックして削除します。表示されていないパッチを追加したい場合は [+ パッチの追加] をクリックします。

パッチインストール/アンインストール(コンピューター)

構成の名前/説明

名前* ブラウザの更新その他 × 90 説明の追加

パッチのインストール

パッチの一覧

操作の種類 ☒ パッチのインストール ☐ パッチのアンインストール

+ パッチの追加

合計: 3 | 🔍

パッチID	パッチの説明	再起動	パッチの種類	アクション
35186	2022-12 Cumulative Update for Windows 10 Version 21H1 for x64-based ...	必要	Security Up...	×
110667	Update for Microsoft WebView2 Runtime (x64) (114.0.1823.82)	不要	Non Securit...	×
332060	Google Chrome (x64) (115.0.5790.171)	不要	Third Party ...	×

1 - 3: 3 25

配布構成の作成

- 適用する「配布ポリシー」(→ [7-6](#)) を選択します。
- 「配布/適用対象の設定」の項目で、配布対象となる端末が正しく表示されていることを確認します。配布を取りやめる端末がある場合や、対象端末を追加する場合は、該当項目にカーソルを入れて、編集します。

配布/適用対象の設定

対象1 リモートオフィス/ドメイン Default Remote Office

次の条件に基づいてコンピューターをフィルタする:

コンピューター TSURU-SURFACE

除外対象

ドメイン 選択

実行設定: [任意]

☒ 構成を失敗した対象に再試行

再試行の頻度:

2 回

1 (起動時に一回)

1 (リフレッシュサイクル時に一回)

☐ 通知の有効化

ステータスの変更に応じて、指定した頻度ごとにメール通知をします

スケジューラー設定

☒ 指定した日時以降にインストール

2023-09-01 12:34

☐ 適用の有効期限

配布構成の作成

- その他必要な項目を入力し、[配布] または [今すぐ配布] をクリックします。

以上でパッチを配布することができます。詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

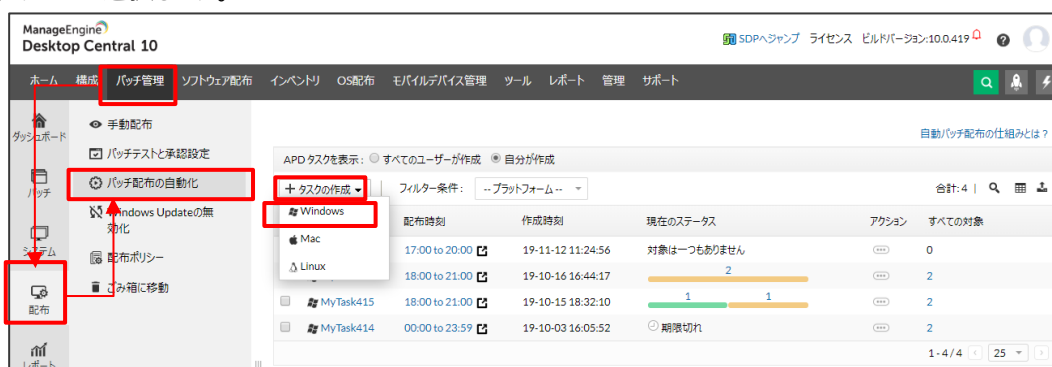
https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2262

7-8 パッチの自動配布（パッチ配布の自動化）

IT 管理者がコンソール画面を毎回開かずとも、パッチ配布が実行されるようにするには、自動配布（パッチ配布の自動化）を利用します。自動配布のタスクは定期的に行われます。事前に設定しておいた条件をタスクの実行時点で満たしているパッチが、自動的に配布されます。

自動配布は、以下の手順で設定することができます（主な項目のみ説明します）。

1. [パッチ管理]タブ → [配布] → [パッチ配布の自動化] をクリックします。[+ タスクの作成] をクリックし、パッチを配布する対象の OS を選択します。



種類の選択

2. パッチ配布自動化の対象とするパッチの種類と重要度をそれぞれ OS、サードパーティ製品について選択します。また、特定のアプリケーションについてパッチを適用しない/特定のアプリケーションのみパッチを適用する場合はアプリケーション名を選択します。



Microsoft・サードパーティ製品パッチの選択

3. 自動配布では、対象のパッチのうち、リリースされてから一定の日数が経過したもののみが配布されます。そのような基準となる日数（0 日も可）を入力し、「リリースからの日数」を選択します。

ただし、ここで「承認からの日数」を選択した場合、各パッチの「承認ステータス」が「承認済み」となってからの日数がカウントされ、それに基づいて配布が実行されます。

いずれを選択した場合も、配布対象となるパッチは「承認ステータス」が「承認済み」となっているもののみです。

承認ステータスの詳細は、[7-10 パッチの承認ステータス](#) をご覧ください。

基準となる経過日数の指定

4. [配布設定を選択]で、適用する「配布ポリシー」(→ [7-6](#)) を選択します。

配布ポリシーの選択

5. [配布/適用対象の設定]で、配布対象となる端末を指定します。

対象の定義

6. その他必要な項目を入力し、保存します。

以上でパッチを自動的に配布することができます。詳細は以下のナレッジも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4744

パッチの自動配布タスクを利用してアンチウイルスのアップデート（定義ファイルの更新）を実施する場合、他のパッチ（Windows の OS パッチなど）とは別の配布タスクとして作成することをお勧めします。これは、アンチウイルスの定義ファイルの更新は他の一般的なパッチと比べて配信頻度が多いためです。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1547

7 - 9 セルフサービスポータルを利用

「セルフサービスポータル」は、管理対象の各端末から閲覧・操作できるツールです。セルフサービスポータルを利用することで、各端末を利用するエンドユーザーの任意のタイミングで、パッチのインストールを行うことができます。

そのため、企業・組織の IT 管理者が「このパッチは必ず適用すべき」と判断したパッチは、セルフサービスポータルを利用せずに一律で配布を実行する一方、IT 管理者が「このパッチは適用しても適用しなくてもどちらでもよい」と判断したパッチは、セルフサービスポータルを活用し、エンドユーザーに適用を任せる、という運用が可能となります。

セルフサービスポータル経由での配布と、一律での配布を併用することもできます。手動配布の配布構成を作成する際、または自動配布の配布タスクを作成する際に、**[配布オプション]**で「配布」を選択のうえ、**[セルフサービスポータル(SSP)に公開]**では「はい」を選択します。この場合、対象のパッチは、まず対象端末のセルフサービスポータル上に登録（公開）されます。その後、エンドユーザーがパッチのインストールを行わないまま、配布ポリシーで指定した曜日・時間帯を迎えた場合、一律でのインストールが実行されます。



一律での配布とセルフサービスポータルの併用

セルフサービスポータルの操作について、[9-4（ユーザー側の操作）](#)も合わせてご覧ください。

また、以下のナレッジでもセルフサービスポータルについて説明していますのでご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2437

7-10 パッチの承認ステータス

それぞれのパッチには、「未承認」「承認済み」「拒否済み」という3つのステータスがあります。これらのステータスを、「承認ステータス」と呼びます。

「拒否済み」に設定されたパッチは、コンソール画面上の各表示において「欠落パッチ」から除外されるとともに、パッチの自動配布の対象外となります。承認ステータスを「拒否済み」に変更する方法は、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2157

以下では、「未承認」「承認済み」の2つのステータスについて取り上げます。

パッチの手動配布（→ [7-7](#)）で「承認済みパッチのインストール」ボタンを使用する場合や、自動配布（→ [7-8](#)）の場合には、「承認済み」のパッチが配布対象となります。

デフォルトのステータスの選択（「未承認」の有効化・無効化）

新たにリリースされたパッチの承認ステータスを「未承認」「承認済み」のいずれにするのかについて、あらかじめ設定しておくことができます。設定するには、以下の方法を利用します。

1. 「パッチ管理」タブ → 「配布」 → 「パッチテストと承認設定」を開きます。
2. 「パッチの承認方法」の項目の「編集」をクリックします。



パッチの承認方法

3. 「自動承認（パッチテストなし）」を選択すると、「未承認」という承認ステータスは無効化され、新たなパッチはリリースとともに「承認済み」として扱われます。一方で、「パッチテストと承認設定」を選択すると、新たなパッチは、リリースされた時点では「未承認」として扱われます。



パッチの承認方法

パッチの承認方法を「パッチテストと承認」に設定しておくことで、IT 管理者が「このパッチを配布してもよい」と認めたパッチのみを配布する、という運用が可能になります。以下では、その場合に各パッチのステータスを「未承認」から「承認済み」へ変更する方法について説明します。

テスト用端末への自動配布を行わない場合

パッチを1つ1つ確認しながら適用の可否を判断する運用の場合、「適用してもよい」とIT 管理者が判断したパッチについて手動で承認ステータスを「未承認」から「承認済み」へ変更します。

手動で承認ステータスを変更するには、以下の方法を利用します。

1. [パッチ管理]タブ → [パッチ] → [適用可能なパッチ] を開きます。
2. 承認したいパッチにチェックを入れます。
3. “ステータスの変更”をクリックし、承認済みを選択します。



パッチの承認

テスト用端末への自動配布を行う場合

パッチ適用を検証するための端末（テスト用端末）をお客様においてご用意いただける場合、Endpoint Central の機能を利用して、パッチテストのワークフローを実現することが可能です。このワークフローでは、他の管理対象端末に先立って、まずテスト用端末へパッチが自動で配布され、その結果をもとに各パッチの承認ステータスが「承認済み」へ変更されます。

テスト用端末へパッチを自動的に配布するためには、以下の方法で設定を行います。

1. **4-1 (C) カスタムグループ** を参考に、テスト用端末のみが所属するカスタムグループを作成します。なお、動的カスタムグループはテストグループとして利用できないため、静的グループまたはユニークグループを作成します。
2. 上記「**デフォルトのステータスの選択（「未承認」の有効化・無効化）**」を参照して、「パッチテストと承認設定」が選択されていることを確認し、「保存」をクリックします。

3. [グループの追加]をクリックします。



グループの追加

4. 対象の OS を選択し、テストグループとして利用するカスタムグループを選択します。



カスタムグループの選択

5. テストグループへの配布を行う対象となるパッチの種類を選択します。



パッチの種類の選択

6. テストグループへの自動配布では、対象のパッチのうち、リリースされてから一定の日数が経過したもののみが配布されます。そのような基準となる日数（0 日も可）を入力します。なお、実際の配布は、配布ポリシー（→ [7-6](#)）で指定した曜日・時間帯に行われます。

配布基準

7. 「次の期間を過ぎた場合、テスト済みのパッチを自動的に承認する」の項目を有効化、または無効化します。

- ◆ この項目のチェックを外して無効化した場合、テスト用端末への配布が終了した後も、各パッチの承認ステータスは「未承認」のままです。そのため、上記「テスト用端末への自動配布を行わない場合」と同様に、各パッチを個別に選択して「承認済み」へ変更する必要があります。

- ◆ この項目にチェックを入れて有効化する場合、日数を指定します。

指定した日数が経過した時点で、あるパッチが

- ✓ いずれか 1 台の端末で適用が成功している
- ✓ 適用失敗の状態で適用が終了するということが、どの端末においても発生していない（なお、適用途中のものは考慮されません）

という、2 つの条件をともに満たしている場合、そのパッチは承認ステータスが「承認済み」へ自動的に変更されます。

テスト済みのパッチの自動的な承認

8. 以上の入力内容を確認し、「作成」をクリックします。

以上により、テスト用端末へパッチを自動的に配布することができるとともに、必要に応じて、テスト後にステータスを「承認済み」へ自動的に変更する機能を有効化・無効化することができます。

8 インベントリ管理

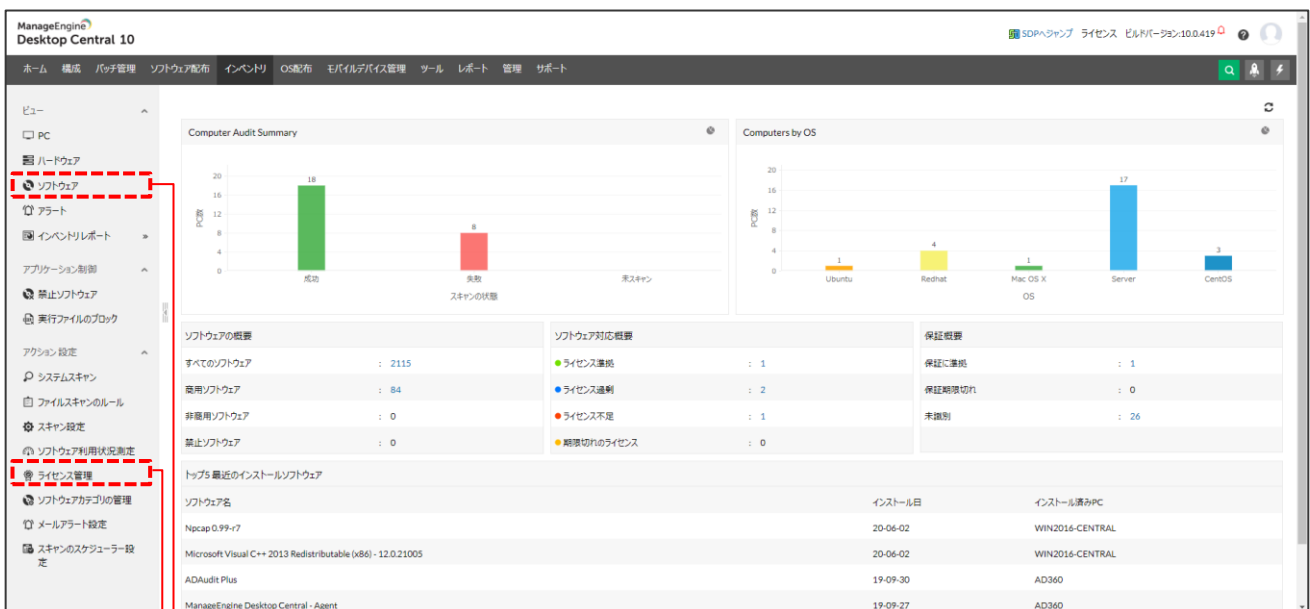
この章ではインベントリ管理について説明します。[インベントリ]タブより、各種機能がご利用いただけます。

なお、この章で説明を割愛している機能もいくつかございますので、以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2413

8 - 1 インベントリタブの概要

[インベントリ]タブでは、スキャン（インベントリスキャン）によって取得された、各端末のハードウェア情報やインストールされているソフトウェアの情報について、一覧化して表示することができます。このほか、ソフトウェアライセンスの管理、実行ファイルのブロック、ソフトウェア利用状況の測定などの機能もご利用いただけます。



The screenshot shows the License Management section in the ManageEngine Desktop Central 10 interface. It displays a table of installed software licenses.

ソフトウェア名	ソフトウェアバージョン	購入数	ネットワーク上のインストール数	管理下のインストール数	残り	対応ステータス	アクション
Adobe Creative Cloud	4.9.0.504	10	2	2	8	ライセンス過剰	(S)
Adobe Creative Cloud	4.3.0.256	5	1	1	4	ライセンス過剰	(S)
Adobe Illustrator CC 2019	23.0.2	3	2	2	1	ライセンス過剰	(S)
Microsoft Access_Riz	14.0.4763.1000	10	10	10	0	対応済み	(S)
Microsoft Office	16.0.11901.20074	100	36	36	64	ライセンス過剰	(S)
MS SQL 2016	13.1.4001.0	100	29	29	71	ライセンス過剰	(S)

ライセンス管理

各端末へインストールされたソフトウェアの数が把握できるため、ライセンスの過不足やコンプライアンス違反の回避が可能です。

The screenshot shows the Software Management section in the ManageEngine Desktop Central 10 interface. It displays a table of installed software.

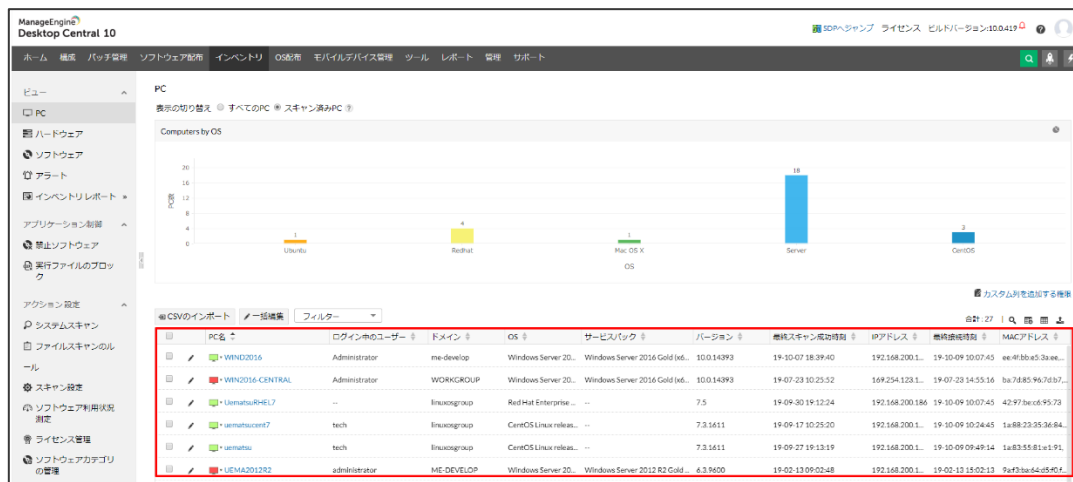
ソフトウェア名	バージョン	メーカー
Xbox Game Speech Window	1.21.1300...	Microsoft Corporation
設定	10.0.2.1000	Microsoft Corporation
Xbox Live	1.24.1000...	Microsoft Corporation
Office	18.1903.1...	Microsoft Corporation
Windows 10 Professional Edition (x64)	-	Microsoft Corporation
Prime 3D	3.3.791.0	Microsoft Corporation
Messaging	4.1901.10...	Microsoft Corporation
App Installer	1.0.91361.0	Microsoft Corporation

ソフトウェア管理

各端末へインストールされたソフトウェアの詳細が確認できます。

8-2 社内・組織内の資産の把握

[インベントリ]タブ → [PC] および、[インベントリ]タブ → [ソフトウェア] を利用して、社内・組織内の PC や、PC にインストールされているソフトウェアについて一覧表示で確認することができます。



社内 PC 一覧

ソフトウェア名	バージョン	メーカー	ソフトウェアの種類	ソフトウェアのカテゴリ	アクション
Citrix XenServer Windows Management Agent	7.10.782	Citrix	12	デスクトップアプリ	...
Windows Server 2016 Standard Edition (x64)	-	Microsoft Co.	9	OS	...
salvage editor (サクラエディタ)	-	サクラエディタ	8	デスクトップアプリ	...
ManageEngine Desktop Central - Agent	10.0.2020W	ZohoCorp	7	デスクトップアプリ	...
Google Update Helper	1.3.34.11	Google LLC	7	デスクトップアプリ	...
Windows Server 2012 R2 Standard Edition (x64)	-	Microsoft Co.	6	OS	...
Microsoft Visual C++ 2010 x64 Redistributable - x64	10.0.40219	Microsoft Co.	6	デスクトップアプリ	...
Microsoft Visual C++ 2013 x64 Minimum Runtime - x64	12.0.21005	Microsoft Co.	6	デスクトップアプリ	...
Microsoft Visual C++ 2013 x64 Additional Runtime - x64	12.0.21005	Microsoft Co.	6	デスクトップアプリ	...
Microsoft Visual C++ 2013 x64 Redistributable (x64)	12.0.21005	Microsoft Co.	6	デスクトップアプリ	...
ManageEngine Desktop Central - Agent	10.0.4020W	ZohoCorp	6	デスクトップアプリ	...
Uninstall	Unknown	Unknown	5	デスクトップアプリ	...

社内のインストール済みソフトウェア一覧

[インベントリ]タブ → [PC] の画面で、それぞれの PC 名をクリックすると、以下のような詳細情報を確認できます。

・取得可能な情報（例）

システム情報

OS バージョン、OS ライセンスの種類、OS の製品 ID、メーカー、サービスタグシリアル番号、モデル名 など

ハードウェア

BIOS、ディスク情報、キーボード、モニター、ネットワークアダプター、物理メモリー、CPU、ビデオコントローラー など

ソフトウェア

デスクトップアプリケーション一覧、Microsoft Store App

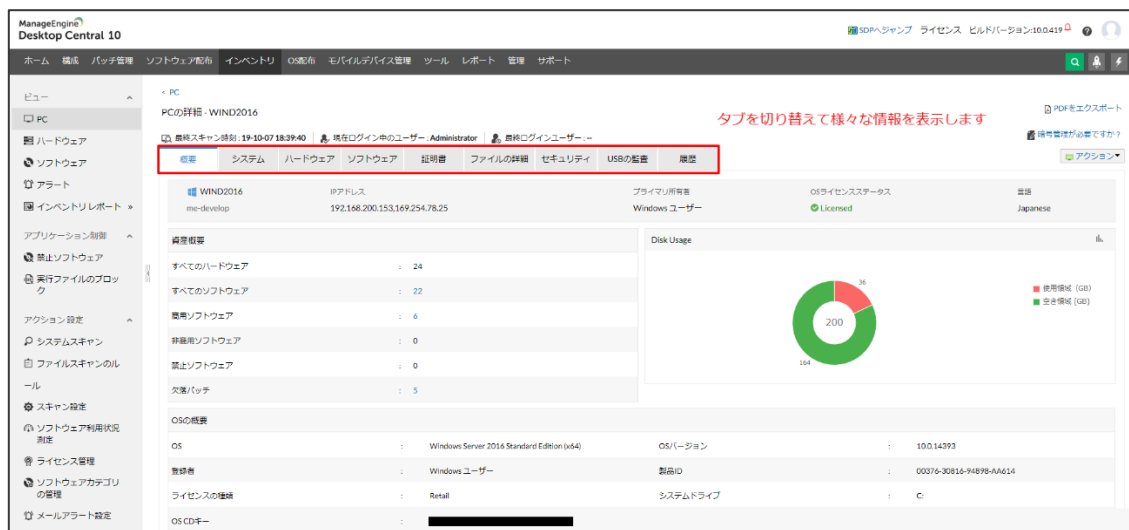
セキュリティ

BitLocker ステータス、アンチウイルスソフトの種類とステータス、ファイアウォールのステータス、欠落パッチ

その他

USB デバイスの使用履歴、ドライバー一覧、ユーザーログイン履歴 など

※OS/機種によっては、インベントリ情報の一部を取得できない場合があります。



コンピューターごとの詳細情報

なお、[13-1](#) で説明するインベントリレポートも合わせてご活用ください。

8-3 インベントリスキャン（資産スキャン）の実施

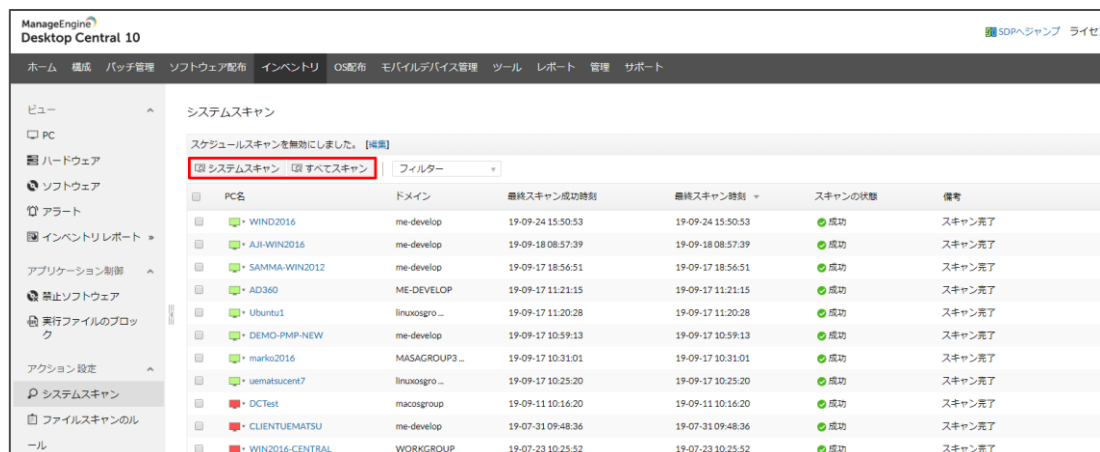
上記、[8-2 社内・組織内の資産の把握](#) で表示される資産の内容を最新の情報に更新するためには、インベントリスキャン（資産スキャン）を実施する必要があります。

インベントリスキャン（資産スキャン）を実施する方法は、以下の 2 種類があります。

- (A) 手動スキャン
- (B) スケジュールスキャン

(A) 手動スキャン

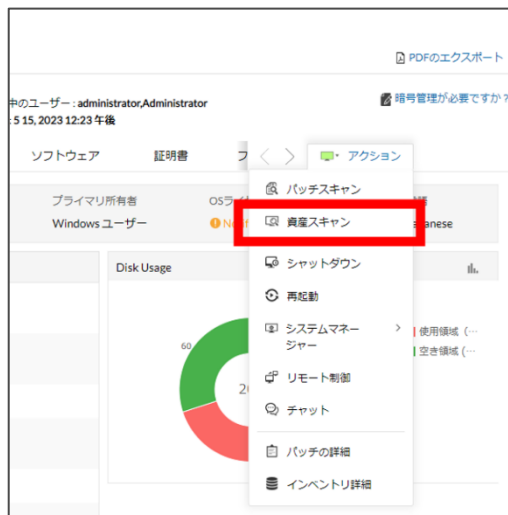
1. [\[インベントリ\]タブ](#) → [アクション設定](#) → [\[システムスキャン\]](#) をクリックします。
2. スキャンを実施するコンピューターを選択後に[\[システムスキャン\]](#)をクリック、または[\[すべてスキャン\]](#)をクリックします。



手動スキャン

インベントリスキャン（資産スキャン）は、以下の方法で行うこともできます。

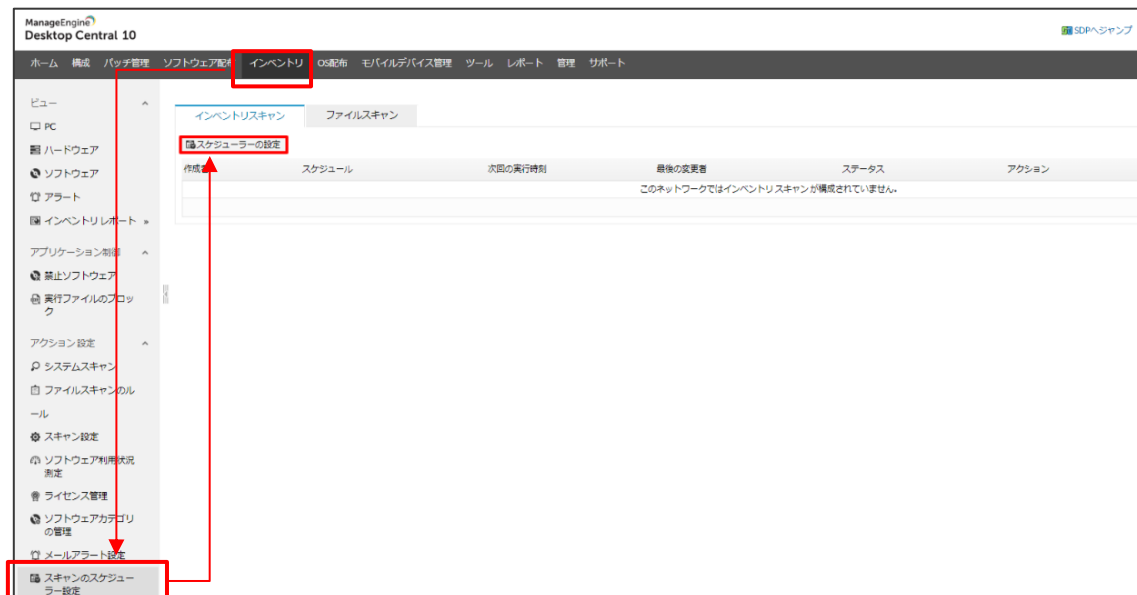
1. [インベントリ]タブ → [PC] の画面で、スキャンを実施したい PC 名をクリックします。
2. 画面右上の [アクション] をクリックし、[資産スキャン] をクリックします。



資産スキャン

(B) スケジュールスキャン

[インベントリ]タブ → アクション設定 → [スキャンのスケジューラー設定] を開き、[スケジューラーの設定] をクリックします。開始時刻などの各項目を入力・指定しておくことで、以後、スキャンが定期的に実行されます。



スケジュールスキャンの有効化

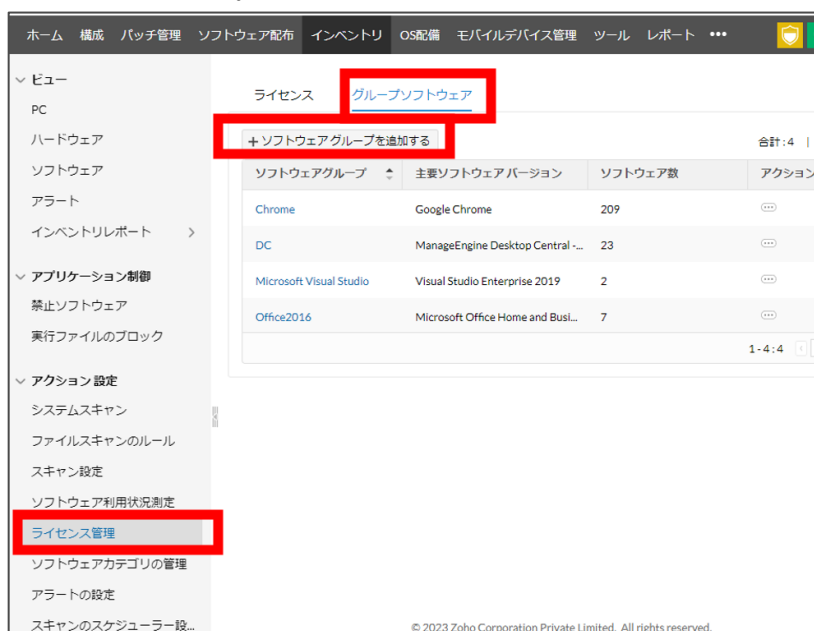
8-4 ライセンス管理

ライセンス管理機能は、管理端末にインストールされているソフトウェア数をカウントします。ソフトウェアライセンスを管理することで、過剰なライセンスの削減やライセンス不足によるコンプライアンス違反の回避が可能になります。詳細は次のナレッジをご覧ください。https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1162

ソフトウェアライセンスを管理するためには、はじめに自社で所有するライセンス数を入力する必要があります。入力方法は、手動または CSV ファイルのインポートから選択できます。手順は以下のとおりです。

1. まず初めに、異なるバージョンのソフトウェアをまとめて 1 つのソフトウェアとして見なすために「グループソフトウェア」の設定を行います。

[インベントリ]タブ → ライセンス管理 → [グループソフトウェア] をクリックします。[+ ソフトウェアグループを追加する]をクリックし、対象のソフトウェアを指定します。



グループソフトウェアの設定

2. [インベントリ]タブ → ライセンス管理 → [ライセンスの追加] をクリックします。



ライセンスの追加

メモ：ライセンスの追加は、以下のような CSV ファイルをインポートすることでも対応できます。

(例)

```
PRODUCT_NAME,MANUFACTURER,VERSION,LICENSE_OWNER,NO_OF_LICENSES_PURCHASED,LICENSE_NAME,LICENSED_TO,PURCHASED_DATE,EXPIRED_DATE,LICENSE_KEY
Zeal,Zeal Developers,0.1.1,ZOHO Corp.,100,Zeal Licenses,,,,,A1J33443I56AV00AAZCS
Adobe Photoshop CC,Adobe,-,ZOHO UX,19,Adobe Photoshop,,1/4/2020,31/12/2022,
```

3. ソフトウェア情報の各項目を入力します。

ManageEngine
Desktop Central 10

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

ビュー
PC
ハードウェア
ソフトウェア
アラート
インベントリレポート
アプリケーション制御
禁止ソフトウェア
実行ファイルのブロック

ライセンスの管理 > ライセンスの追加
ライセンスの追加

ソフトウェア情報

製品名* Adobe Creative Cloud

メーカー Adobe Systems Incorporated

バージョン* 4.9.0.504

ライセンスの所有者 デザインチーム

ソフトウェアの詳細情報の入力

4. ライセンス詳細の各項目を入力します。

アプリケーション制御
禁止ソフトウェア
実行ファイルのブロック
アクション設定
システムスキャン
ファイルスキャンのルール
スキャン設定
ソフトウェア利用状況測定
ライセンス管理
ソフトウェアカテゴリの管理
メールアラート設定
スキャンをスケジュール

ライセンス詳細

購入ライセンス数* 10

ライセンス名* AdobeCC

ライセンス先 東京本社

購入日 09/25/2019 ×

有効期限日 09/25/2020 ×

ライセンスキー abcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789

ライセンスファイル Drop files here (or) 参照

請求書ファイル Drop files here (or) 参照

コメント ..

その他必要に応じて、任意項目を入力します

ライセンスの詳細情報の入力

- 「ライセンスを関連付ける」にてライセンスと対象端末を関連付けることができますが、任意項目のため省略可能です。
 - [追加]**をクリックします。
- 以上でライセンスを追加することができます。

ライセンス追加後、ライセンサー一覧と、所持ライセンス数に応じたライセンスの対応ステータス（ライセンス過剰、ライセンス不足、ライセンス準拠）などの情報を一覧で確認できます。

ソフトウェア名	ソフトウェアバージョン	購入数	ネットワーク上のインストール数	管理中のインストール数	残り	対応ステータス	アクセスタイプ	ライセンスの種類	購入日	有効期限日	アクション
7-Zip 16.04 (x64)	16.04	1	0	0	1	● ライセンス過剰	未割当て	商用	--	--	(icon)
AD Audit Plus	4.6.0	0	1	1	-1	● ライセンス不足	許可済み	商用	--	--	(icon)
AD Manager Plus	6.6	10	1	1	9	● ライセンス過剰	未割当て	商用	19-04-01	20-03-31	(icon)
Microsoft Visual Studio	16.2.29306.81	2	2	2	0	● ライセンス準拠	未割当て	商用	19-09-17	20-09-17	(icon)

ライセンス確認画面

8-5 禁止ソフトウェア

禁止ソフトウェアの機能では、管理端末にインストール済みのソフトウェア一覧から、対象ソフトウェアを「禁止ソフトウェア」として登録しておくことで、業務での使用を禁止したいソフトウェアについて管理することができます。Windows のソフトウェアについては、管理者へのアラート通知/自動アンインストールを実施できます。詳細は次のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3787

この機能を利用するには、**[インベントリ]タブ → アプリケーション制御 → [禁止ソフトウェア] → [禁止ソフトウェアの追加]**をクリックし、対象のソフトウェアを登録します。

ソフトウェア名	バージョン	インストーラーの種類	管理中のインストール数	ネットワーク上のインストール数	アンインストールのコマンド	除外
利用できるデータはありません						

禁止ソフトウェアの設定

禁止ソフトウェア追加後、ソフトウェアの名前と、各ソフトウェアが管理対象端末にインストールされている数などの情報について、一覧で確認できます。



禁止ソフトウェアの一覧

8-6 実行ファイルのブロック

実行ファイルのブロックでは、悪影響を及ぼす可能性のある実行ファイルや、ユーザーに利用させたくないソフトウェアの実行ファイルを追加し、コンピュータ上での実行を防ぎます。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3285

1. [4-1 \(C\) カスタムグループ](#) を参照し、実行ファイルをブロックする対象となるカスタムグループを作成します。
2. [インベントリ]タブ → アプリケーション制御 → [実行ファイルのブロック] → [ポリシーの追加] をクリックします。



実行ファイルのブロックポリシーの追加

3. カスタムグループを選択し、[実行ファイルの追加] をクリックします。



実行ファイルの追加

4. 任意のアプリケーション名、ブロックルール(パス/ハッシュ)、実行ファイル名を指定し、[追加] をクリックします。

実行ファイルの追加

5. [保存] をクリックします。

ポリシーの保存

メモ：ブロックルールでハッシュを指定した場合、実行ファイル名が変更された場合でもファイルの実行をブロックできます。

8 - 7 ソフトウェア利用状況測定

ソフトウェア利用状況測定では、指定したソフトウェアの実行時間を測定できます。こちらの機能と **8-4 ライセンス管理** 機能を組み合わせることで、ソフトウェアライセンスの割り当ての最適化を実現できます。

1. [インベントリ]タブ → アクション 設定 → [ソフトウェア利用状況測定] → [ルールの追加] をクリックします。

測定ルールの追加

2. [ソフトウェア名] の欄で、利用状況を測定したいソフトウェアを指定します。
3. ルールの名称 に任意のルール名を入力します。

4. ファイル名 にてソフトウェアの実行ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。

ManageEngine Desktop Central 10

SDPヘジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10.0.419

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

ビュー PC ハードウェア ソフトウェア アラート インベントリレポート アプリケーション制御 禁止ソフトウェア 実行ファイルのブロック アクション設定

測定ルール設定の追加

ネットワーク上のソフトウェアアプリケーションの使用を追跡するための測定ルール設定を定義する。

測定ルール設定の追加

ソフトウェア名: Google Chrome(78.0.3904.87) [ソフトウェアを選択する | クリア](#)

ルールの名称: Chrome

ファイル名: chrome.exe

[表示 詳細設定](#)

ソフトウェア使用状況測定レポートはルールが作成された日の翌日に生成されます。

[保存](#) [キャンセル](#)

ファイル名の追加

ソフトウェアを追加後、以下のようにコンピューターごとのソフトウェア利用時間を確認できるようになります。

ManageEngine Desktop Central 10

SDPヘジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10.0.439

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

ビュー PC ハードウェア ソフトウェア アラート インベントリレポート アプリケーション制御 禁止ソフトウェア 実行ファイルのブロック アクション設定 システムスキャン ファイルスキャンのルール スキャン設定 ソフトウェア利用状況測定

Desktop Centralの管理PCのソフトウェア利用状況のデータを収集するために、ソフトウェア利用状況測定ルールを追加します。

測定ルール設定 概要 [測定ルール設定](#)

概要ビューへ戻る | フィルター条件: ドメイン グループ

合計: 100 | [検索](#) [リセット](#)

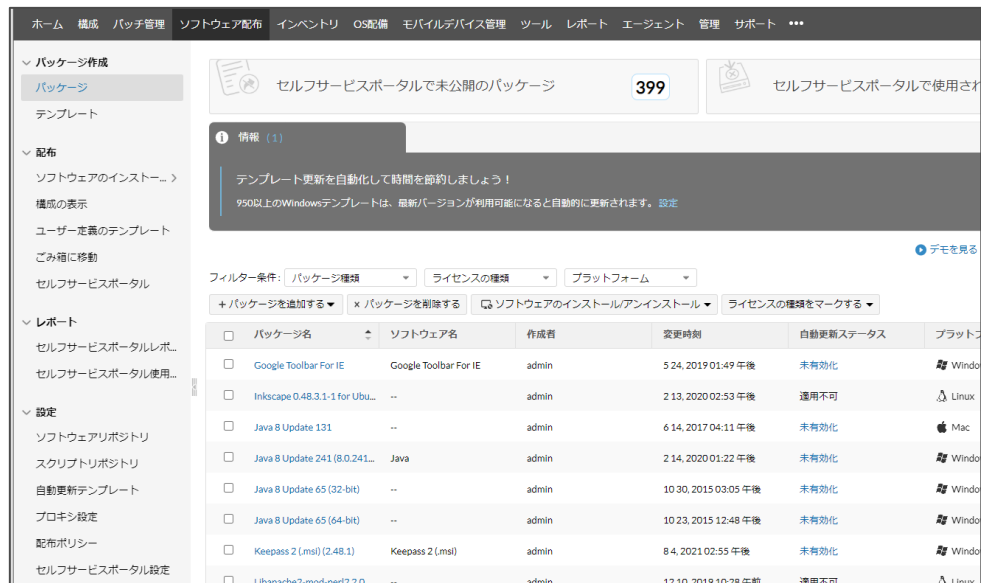
PC名	ドメイン名	利用数	利用時間	最終使用日	最終更新日	製品名	製品のバージョン	ファイルバージョン
		9613	468 日, 19 時間, 01 分	9 3, 2019 09:38 午前	9 3, 2019 09:40 午前	Google Chrome	76.0.3809.132	76.0.3809.132
		45151	-217 日, -7 時間, -8 分	10 10, 2019 09:58 午前	10 10, 2019 10:14 午前	Google Chrome	77.0.3865.90	77.0.3865.90
		13381	135 日, 01 時間, 32 分	10 31, 2019 08:10 午後	11 1, 2019 09:57 午前	Google Chrome	78.0.3904.70	78.0.3904.70
		11873	132 日, 01 時間, 47 分	6 19, 2019 10:49 午前	6 19, 2019 10:51 午前	Google Chrome	75.0.3770.90	75.0.3770.90
		20315	82 日, 02 時間, 38 分	11 6, 2019 07:54 午前	11 6, 2019 07:58 午前	Google Chrome	78.0.3904.87	78.0.3904.87
		10752	-88 日, -12 時間, -5 分	10 7, 2019 06:03 午後	10 23, 2019 02:44 午後	Google Chrome	77.0.3865.90	77.0.3865.90
		165	-1 日, -22 時間, -48 分	11 5, 2019 06:29 午後	11 6, 2019 10:36 午前	Google Chrome	78.0.3904.87	78.0.3904.87
		15033	-177 日, -9 時間, -47 分	10 3, 2019 09:03 午前	10 28, 2019 02:44 午後	Google Chrome	77.0.3865.90	77.0.3865.90
		451	13 日, 02 時間, 24 分	9 20, 2019 01:17 午後	11 6, 2019 12:38 午前	Google Chrome	76.0.3809.132	76.0.3809.132
		10604	105 日, 23 時間, 40 分	11 6, 2019 09:00 午前	11 6, 2019 09:01 午前	Google Chrome	78.0.3904.70	78.0.3904.70

1 - 25 of 100 | 25 | [リセット](#)

ソフトウェア利用時間の計測

9 ソフトウェア配布

この章では、[ソフトウェア配布]タブで利用できる各機能について説明します。



ソフトウェア配布タブ

Endpoint Central のソフトウェア配布機能では、ソフトウェアを管理対象端末へインストール/アンインストールすることが出来ます。インストールの前後にスクリプトを実行させたりレジストリを編集したりすることも可能です。

また、管理者がソフトウェアカタログを作成・公開し、ユーザーは必要に応じて各自でインストールする「セルフサービスポータル」機能もあります（各ユーザーは管理者権限なしでソフトウェアをインストール可能です）。

その他、ソフトウェア配布に関する詳細設定については、以下のナレッジも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2562

9 - 1 ソフトウェアパッケージの保存先（ソフトウェアリポジトリ）の設定

ソフトウェアを配布するには、次の節で説明する「ソフトウェアパッケージ」を作成する必要があります。その保存先について設定します。

ソフトウェアパッケージを作成する際には、あらかじめ共有フォルダーに保存しておいた実行ファイルを用いる方法（(A)ネットワーク共有）と、コンソール画面上から実行ファイルをアップロードして Endpoint Central サーバーに保存する方法（(B) HTTP リポジトリ）が選べます。ここでは、その保存先となるディレクトリをそれぞれ設定します。

(A) ネットワーク共有

共有フォルダーを利用しない場合、この項目は設定不要です（その場合、HTTP リポジトリを利用してソフトウェアパッケージを作成します）。

共有フォルダーを利用してパッケージ作成を行う場合、以下の手順でフォルダーを指定します。

(C) ZOHO Japan Corporation. All rights reserved.

1. [ソフトウェア配布]タブ → 設定 → [ソフトウェアリポジトリ] を開き、[ネットワーク共有]小タブを開きます。

ソフトウェアリポジトリとして、ネットワーク共有またはHTTPリポジトリを設定します。

ネットワーク共有 HTTPリポジトリ

ソフトウェアリポジトリとしてネットワーク共有を設定します。設定するパスは、管理PCからアクセスできる必要があります。

ネットワーク共有の設定

タイプの作成 ☒ ネットワーク共有の作成 ☐ 既存の共有を選択してください

ネットワーク共有* C:\DesktopCentral\SoftwareRepository
[(例) C:\EndpointCentral\Share]

このオプションを選択すると、Desktop CentralサーバーにインストールされているPCにネットワーク共有が自動的に作成されます。共有のアクセスに資格情報が指定されなかった場合、「すべてのユーザー」グループに「読み取りと実行」権限が与えられます。または、以下のユーザーにのみ読み取り 実行権限が与えられます。Endpoint Centralでパッケージを追加する前にソフトウェアバイナリをこの場所にコピーする必要があります。

☒ 資格情報を用いて共有パスにアクセスする

後続のドメイン/ワークグループ環境のPCから共有パスにアクセスする場合、または共有パスのアクセス権が特定のユーザーアカウントのみにしか付与されていない場合、以下に資格情報を入力する必要があります。

ユーザー名* 5000

1. 共有がドメインコンピュータにある場合は、ユーザー名の前にドメイン名を付けます (例: ZohoCorp\Administrator)。
2. 共有がワークグループのPCに存在する場合、PC名をユーザー名にプレフィックスとして付けます (例: MachineName\DCAdmin)。

パスワード* *****

☐ 共通のネットワーク共有の作成と管理
について詳しく学びましょう。

ネットワーク共有

2. フォルダーへのパスを指定し、必要に応じて資格情報を入力します。
3. [保存]をクリックします。

(B) HTTP リポジトリ

Endpoint Central サーバーにソフトウェアパッケージを保存する場合の保存先について、デフォルトで指定されているディレクトリから変更する場合は、以下の手順で変更します。

1. [ソフトウェア配布]タブ → 設定 → [ソフトウェアリポジトリ] を開き、[HTTP リポジトリ]小タブを開きます。

ソフトウェアリポジトリとして、ネットワーク共有またはHTTPリポジトリを設定します。

ネットワーク共有 HTTPリポジトリ

ソフトウェアパッケージファイルのアップロード先を設定します

アップロード先のディレクトリを変更する

ファイルは以下のディレクトリに保存されます。ディレクトリの変更も可能です。

現在のディレクトリ C:\ManageEngine\DesktopCentral_Server\websites\DesktopCentral\SoftwareRepository\DCSWHttpRepository\DCSWHttpRepository

新しいディレクトリ* 255
[例: C:\HTTPRepository]

保存

HTTP リポジトリ

2. 新しいパスを入力し、[保存]をクリックします。

9 - 2 パッケージの追加

ソフトウェアを配布するには、ソフトウェアパッケージを作成（追加）する必要があります。ソフトウェアパッケージは、ソフトウェアのインストーラー（バイナリファイル）と、インストールコマンドやアンインストールコマンド、サイレント引数（サイレントスイッチ）、スクリプト実行などの設定情報をひとまとめにしたものです。

パッケージの追加方法は、以下の 2 種類があります。

- (A) 手動追加
- (B) テンプレートから自動追加

(A) 手動追加

1. [ソフトウェア配布]タブ → パッケージ → [パッケージの追加] → Windows または Mac をクリックします。



パッケージの追加

2. 各項目（パッケージ名、パッケージの種類、ライセンスの種類、リポジトリの選択）を入力/選択します。
※「ローカルコンピューターから」（HTTP リポジトリ）を選択した場合、ソフトウェアのバイナリファイルをアップロードする必要があります。
※「ライセンスの種類」の項目は、[9-4 セルフサービスポータル](#)に関連し、[ソフトウェア配布]タブ → 設定 → [セルフサービスポータル設定] から「非商用のソフトウェアを自動的に公開」の設定を行った場合に使用されます。



パッケージ詳細の入力

3. サイレントインストール/アンインストールオプションを指定します。(例:/S /SILENT など)



オプションの指定

- 必要に応じて、配布前の動作/配布後の動作を設定します。



配布前後の動作設定

- [パッケージを追加する]をクリックします。

(B) テンプレートから自動追加

- [ソフトウェア配布]タブ → テンプレート をクリックします。



テンプレート

- 画面右上の虫眼鏡アイコンをクリックし、任意の項目で検索します。

ManageEngine Desktop Central 10

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

パッケージの作成 パッケージ 自 テンプレート

配布

ソフトウェアのインストール/アンインストール

構成の表示

ごみ箱に移動

セルフサービスポータル

設定

ソフトウェアリポジトリ

自動更新テンプレート

プロキシ設定

配布ポリシー

セルフサービスポータルの設定

アプリケーションの詳細を同期する

今すぐ同期

最新のテンプレート 307

自動更新可能なパッケージ一覧 7

自動更新設定

パッケージ作成の仕組み?

テンプレートのリリースを通知 | 使用されているアプリケーションを追加しよう

+ パッケージを作成する フィルター条件: ステータス 期間 OS

合計: 6301

アプリケーション	ソフトウェア名	ベンダー	OS	ダウンロードサイズ	追加された時間	ステータス	ライセンスの種類	タイプ	アクション
Google Chrome									検索
servilio 2.0	--	Six Lines Ltd	Windows	155 MB	19-11-17	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
NVS 1.5.3	--	Microsoft Corporation	Windows	820 KB	19-11-17	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Cryptomator 1.4.15 (x64)	Cryptomator	Cryptomator	Windows	68 MB	19-11-16	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
QuiteRSS 0.18.12	QuiteRSS	QuiteRSS Team	Windows	26 MB	19-11-16	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
mnemosyne 2.6.1	Mnemosyne	Mnemosyne	Windows	74 MB	19-11-16	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
FlashDevelop 5.3.3	FlashDevelop	FlashDevelop	Windows	25 MB	19-11-16	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Fiddler (5.0.20194)	--	Telerik	Windows	6 MB	19-11-16	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
EndNote X9 19.2.0.13018	EndNote X8	Thomson Reuters	Windows	102 MB	19-11-15	未開始	商用	自動	パッケージを作成する
Nextcloud (2.6.1)	Nextcloud	Nextcloud GmbH	Windows	119 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Plex Media Player (2.45.0)	Plex Media Player	Plex	Windows	96 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
K-Lite Codec Pack Standard (15.2.5)	K-Lite Codec Pack	KLCP	Windows	40 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
K-Lite Codec Pack Mega (15.2.5)	K-Lite Codec Pack	KLCP	Windows	57 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
K-Lite Codec Pack Full (15.2.5)	K-Lite Codec Pack	K-Lite Codec Pack	Windows	47 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
K-Lite Codec Pack Basic (15.2.5)	K-Lite Codec Pack	KLCP	Windows	17 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Dropbox (85.4.155)	Dropbox	Dropbox	Windows	106 MB	19-11-15	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する

テンプレートの検索

3. パッケージを選択し、[パッケージを作成する] ボタンをクリックします。

ManageEngine Desktop Central 10

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

パッケージの作成 パッケージ 自 テンプレート

配布

ソフトウェアのインストール/アンインストール

構成の表示

ごみ箱に移動

セルフサービスポータル

設定

ソフトウェアリポジトリ

自動更新テンプレート

プロキシ設定

配布ポリシー

セルフサービスポータルの設定

アプリケーションの詳細を同期する

今すぐ同期

最新のテンプレート 307

自動更新可能なパッケージ一覧 7

自動更新設定

パッケージ作成の仕組み?

テンプレートのリリースを通知 | 使用されているアプリケーションを追加しよう

+ パッケージを作成する フィルター条件: ステータス 期間 OS

合計: 4

アプリケーション	ソフトウェア名	ベンダー	OS	ダウンロードサイズ	追加された時間	ステータス	ライセンスの種類	タイプ	アクション
Google Chrome									検索
Google Chrome For Mac (78.0.3904.97)	Google Chrome For Mac	Apple	Mac	79 MB	19-11-07	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Google Chrome (x64) (78.0.3904.97)	Google Chrome	Google	Windows	57 MB	19-11-07	完了済み	非商用	自動	パッケージへ移動する
Google Chrome (78.0.3904.97)	Google Chrome	Google	Windows	56 MB	19-11-07	未開始	非商用	自動	パッケージを作成する
Google Chrome Frame (85.4.155)	Google Chrome	Google	Windows	36 MB	17-06-07	完了済み	非商用	自動	パッケージへ移動する

パッケージの作成

4. [パッケージを作成する] ボタンをクリックします。

パッケージを作成する

アプリケーション	ダウンロードサイズ	自動更新 ?	ステータス
Google Chrome (78.0.3904.97)	56 MB	有効化済み	未開始

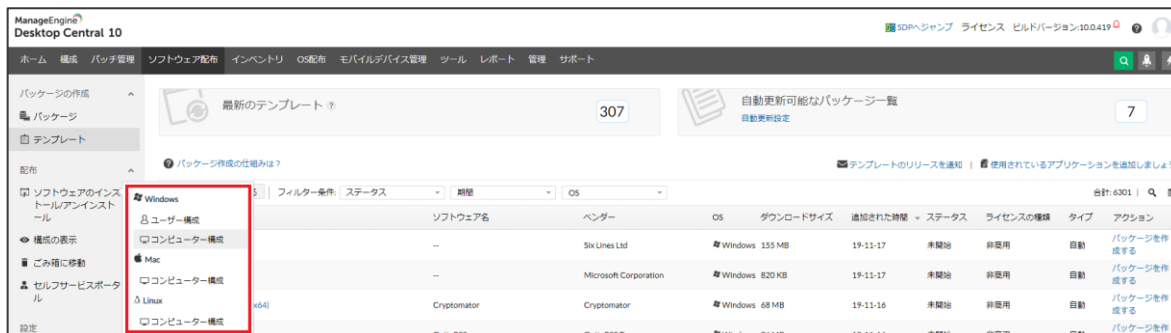
パッケージを作成する 閉じる

パッケージの作成

9 - 3 ソフトウェアのインストール/アンインストール

9-2 パッケージの追加 で作成したパッケージを用いて、ソフトウェアのリモートインストール/アンインストールを実行します。

1. **ソフトウェア配布タブ** → **ソフトウェアのインストール/アンインストール** を開き、プラットフォーム（Windows/Mac/Linux）と構成の種類（ユーザー/コンピューター）の中で要件に合うものを選択します。



プラットフォーム/構成の種類の選択

2. **構成の名前/説明の入力、パッケージ設定** を構成します。



構成の設定

3. 各項目を入力し、**[配布]**または**[今すぐ配布]**をクリックします。



構成の設定

9 - 4 セルフサービスポータル

7-9 で説明したセルフサービスポータルは、パッチ管理だけでなくソフトウェア配布の目的で使用することもできます。セルフサービスポータルを利用することで、管理者が作成したソフトウェアカタログからユーザーがソフトウェアのインストール/アンインストールを実行できます。カスタムグループごとに公開するカタログの内容を変えることが可能です。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2437

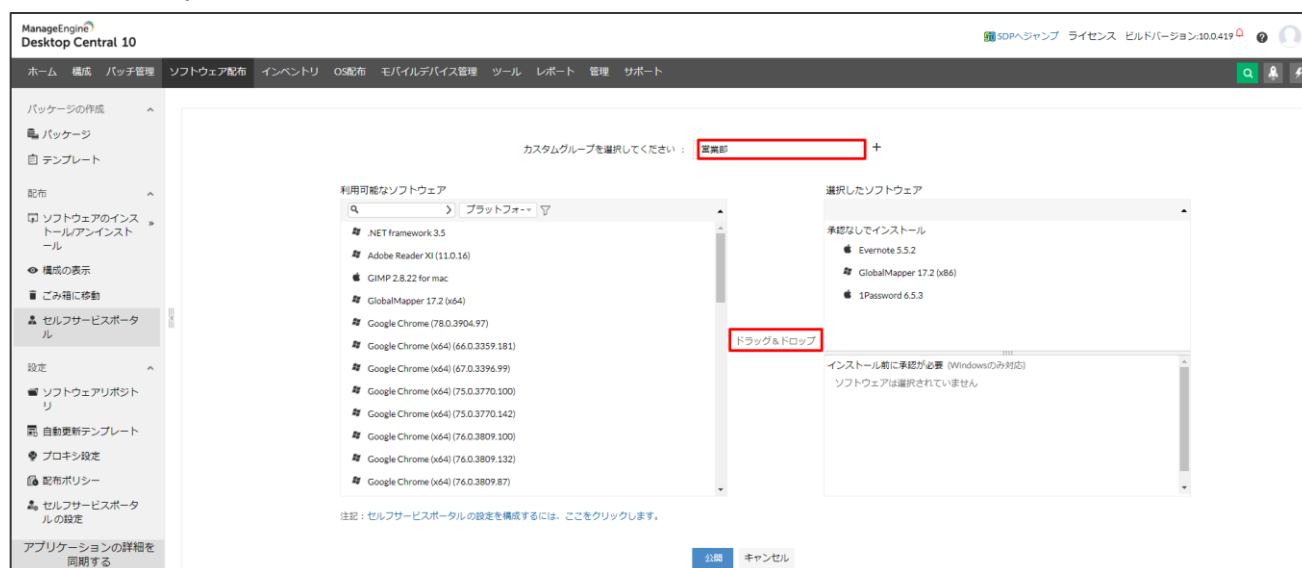
<管理者側の操作>

1. [ソフトウェア配布]タブ → [セルフサービスポータル] → [パッケージの公開] → [コンピューター]/[ユーザー] を選択します。



パッケージの公開

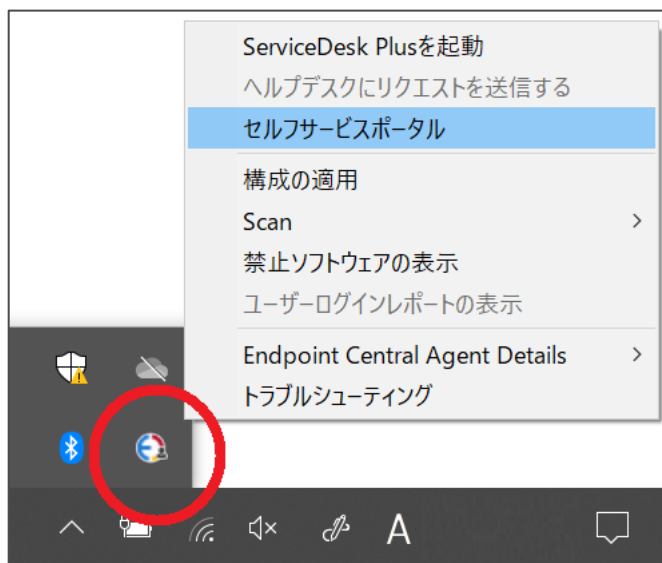
2. 配布対象となるカスタムグループ (→ **4-1 (C)**) を入力/選択し、公開するソフトウェアをドラッグ&ドロップしたら[公開]をクリックします。



カスタムグループ/ソフトウェアの選択

<ユーザー側の操作>

1. Windows の場合はデスクトップ画面右下の通知領域（Mac の場合はメニューバーのステータスメニュー）にあるエージェントアイコンを右クリックし、**[セルフサービスポータル]** をクリックします。



セルフサービスポータル

2. 公開されたソフトウェアカタログから、ソフトウェアをインストール/アンインストールします。



セルフサービスポータルからのインストール

メモ：

セルフサービスポータルはユーザーに管理者権限がなくてもインストール/アンインストールが可能です。そのため、各端末の管理者権限をユーザーに与えない運用も可能になります。

1 0 構成

「構成」機能は、コンピューター/ユーザーに対して、レジストリの設定やスクリプトの適用などの各種設定を一括配布できる機能です。管理対象端末の設定を統一することができるため、各企業・組織で定めているセキュリティ基準へ各端末を適合させることに役立ちます。

構成を新規で作成したり、作成済みの構成を確認したりするには、**[構成]**タブを利用します。

メモ：

第7章 および **第9章** で説明したパッチ配布（手動配布）やソフトウェア配布も、それぞれ「構成」の一種として扱われるため、**[パッチ管理]**タブや **[ソフトウェア配布]**タブだけでなく、**[構成]**タブからも閲覧や新規作成を行うことができます。

ManageEngine Endpoint Central 11

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配備 モバイルデバイス管理 ツール レポート エージェント 管理 サポート

構成の追加
構成
テンプレート
コレクション

構成の新規作成

ローカルユーザー管理構成がMacに対応しました。
ユーザー管理構成を使用して、ローカルユーザーを管理できます。試してみる

構成の表示: ☒ すべてのユーザーが作成 ☐ 自分が作成
+ 構成の作成 フィルター条件: カテゴリ 作成した構成の履歴

構成名	カテゴリ	タイプ	ステータス	作成者	最終更新時刻	アクション
MyConfiguration2455		Linux/パッチのインストール	実行済み	administrator	12/14/2023 05:14 午後	
MyConfiguration2453		Linux/パッチのインストール	ドラフト-ダウンロード	administrator	12/14/2023 05:03 午後	
MyConfiguration2359		ファイル/フォルダー	進行中	administrator	7/12/2023 03:14 午後	
MyConfiguration2342		Linux/パッチのインストール	停止	administrator	7/4/2023 02:11 午後	
MyConfiguration2341		Linux/パッチのインストール	停止	administrator	6/9/2023 02:49 午後	
MyConfiguration2328		ソフトウェアインストール	進行中	administrator	5/19/2023 05:55 午後	

[構成]タブ

1 0 - 1 構成の使用例

この節では構成のうち4種類について取り上げ、その設定手順を説明します。

(A) USB デバイス制御

USB デバイスを制御するための構成について、ここでは Windows 向けの手順を説明します。

詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1633

1. **[構成]タブ → 構成の追加 → [構成] → [Windows]** をクリックします。Windows 向け構成では、USB デバイス制御、カスタムスクリプト、Windows ファイアウォールの設定、ファイル配布、レジストリ設定、プリンター設定、メッセージボックスなどがご利用いただけます。

ここでは、**[USB 制御]** の項目にマウスオーバーし、**[ユーザー構成]**または**[コンピューター構成]** をクリックします。



USB 制御

2. 各項目（構成名、デバイス種類ごとのブロック可否）を入力/選択します。

<追加 Windows 構成

USB制御 (コンピューター)

構成の名前/説明

名前: 説明の追加 任意の構成名/説明を入力します

[最大長 100 文字]

ブロック/ブロック解除するデバイスを選択してください

デバイス種類	変更なし	ブロック解除	ブロック	すべてブロック解除	すべてブロック
マウス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ディスクドライブ ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CDROM	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ポータブルデバイス ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
フロッピーディスク	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Bluetooth	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
USBカメラ/スキャナー ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プリンター	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
モデム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Appleのデバイス ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

デバイスの種類に対して、ブロック可否を設定します

デバイスの種類ごとのブロック可否

3. 各種のデバイスについて **[ブロック]** を選択した場合、**[デバイスを除外する]** をクリックすることで、その種類のデバイスのうち特定のデバイスのみを許可することができます。

デバイスの除外（許可）を設定するためには、デバイス インスタンス ID（デバイス インスタンス パス）を指定する必要があります。デバイス インスタンス パスは、Windows のコントロールパネルから、デバイスマネージャー → 各デバイスのプロパティ → 詳細タブ を開くことで確認できます。

次の事項からデバイスを除外する：ディスクドライブ
特定のデバイスを無効化から除外することもできます。

追加 リストから選択する

除外タイプ：
☒ デバイスのインスタンス ?
☐ このベンダーのすべてのインスタンス ?
☐ すべての暗号化されたデバイス

デバイス インスタンスID：

注記：除外したいデバイスの「デバイス・インスタンスID」を入力してください。 [詳細](#)

☐ デバイスが BitLocker を使って暗号化されている場合のみ、除外する

追加

除外されたデバイス 合計: 0 |

デバイス インスタンスID	除外タイプ	ベンダー名	暗号化基準	アクション
デバイスはいつも除外されていません				

0 - 0 / 0 25

閉じる

除外デバイスの登録

- 適用対象の設定、実行設定（任意）の項目を指定し、**[配布]**または**[今すぐ配布]**をクリックします。

以上で USB デバイスの禁止・許可を設定することができます。

(B) レジストリの編集

管理対象端末のレジストリを編集するための構成について説明します。

なお、レジストリを不適切に編集すると対象端末に深刻な問題が発生するおそれがあります。必ず検証用端末を用意し、お客様の責任において適用時の挙動をあらかじめご確認ください。

レジストリ編集機能について、詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=6262

- [構成]**タブ → **構成の追加** → **[構成]** → **[Windows]** をクリックします。**[レジストリ]** の項目にマウスオーバーし、**[ユーザー構成]**または**[コンピューター構成]** をクリックします。



レジストリの操作

2. 各項目(構成名、レジストリ設定)を入力/選択します。

レジストリ設定の詳細

3. 適用対象の設定、実行設定（任意）の項目を指定し、**[配布]**または**[今すぐ配布]**をクリックします。

(C) メッセージボックス

指定したメッセージウィンドウを表示させる「メッセージボックス」機能について、ここでは Mac 向けの手順を説明します。
詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2272

1. **[構成]**タブ → **構成の追加** → **[構成]** → **[Mac]** をクリックします。Mac 向けの構成では、カスタムスクリプト、ゲートキーパー、システム環境設定、メッセージボックスなどをご利用いただけます。
ここでは、**[メッセージボックス]** の項目にマウスオーバーし、**[ユーザー構成]**または**[コンピューター構成]** をクリックします。



メッセージボックス

2. 各項目（構成名、メッセージ内容、メッセージの表示間隔）を入力/選択します。



メッセージボックス

3. 適用対象の設定、実行設定（任意）の項目を指定し、[配布]または[今すぐ配布]をクリックします。

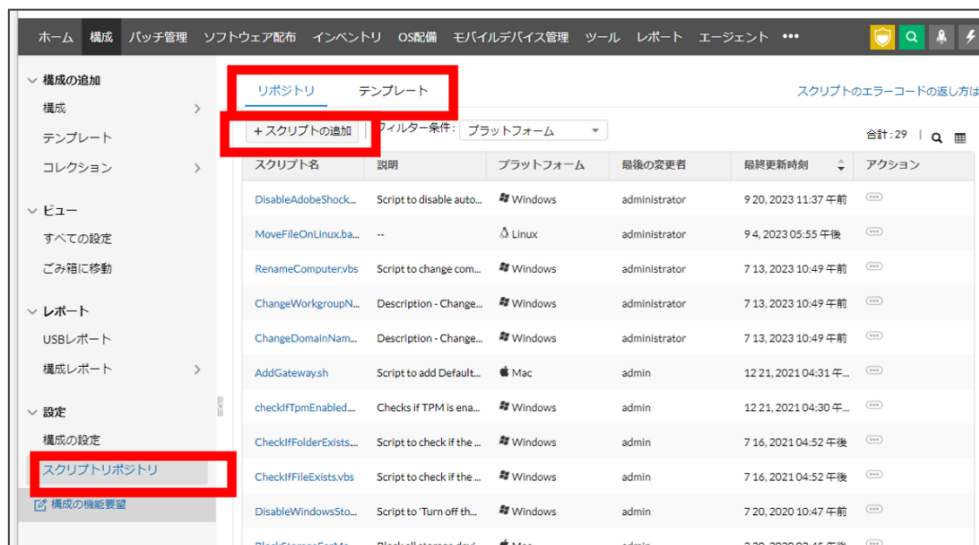
(D) カスタムスクリプト

構成の1つである「カスタムスクリプト」を利用すると、管理対象端末上でスクリプトまたはコマンドを実行することができます。

（コマンドではなく）スクリプトを実行させるには、実行させたいスクリプトをあらかじめ「スクリプトリポジトリ」に保存しておく必要があります。

スクリプトリポジトリにスクリプトを保存するには、[構成]タブ → 設定 → [スクリプトリポジトリ] をクリックします。

- 自作のスクリプトを追加する場合は、[リポジトリ]小タブから [+スクリプトの追加] をクリックします。
- 既定のスクリプトを利用する場合は、[テンプレート]小タブを開き、該当のスクリプトを選択して[リポジトリに追加] をクリックします。



スクリプトの追加

スクリプトを保存したら、カスタムスクリプトの「構成」の作成に進みます。

カスタムスクリプトの構成（スクリプトまたはコマンド）の作成について、ここでは Linux 向けの手順を説明します。

詳細は以下のナレッジを合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2836

1. **[構成]**タブ → **構成の追加** → **[構成]** → **[Linux]** をクリックします。Linux 向けの構成では、カスタムスクリプト、メッセージボックスなどがご利用いただけます。

ここでは、**[カスタムスクリプト]** をクリックします。



カスタムスクリプト

2. 保存しておいたスクリプトを利用する場合は、**[次で指定した形式でスクリプトを実行する]** の項目で **[リポジトリ]** を選択します。コマンドを実行する場合は **[コマンドライン]** を選択します。

必要に応じて、依存ファイルなどを指定します。



カスタムスクリプト

- 適用対象の設定、実行設定（任意）の項目を指定し、**[配布]**または**[今すぐ配布]**をクリックします。

1 0 - 2 構成のステータス

この節では適用した構成のステータスの確認方法を説明します。

なお、ステータスの各表示の意味は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2922

[構成]タブ → **ビュー** → **[すべての設定]** をクリックすると、今までに適用した構成一覧を表示できます。

ManageEngine®
Desktop Central 10

SOPヘジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10.0.419

ホーム 構成 バッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

構成の追加
構成
テンプレート
コレクション
ビュー
ごみ箱に移動
構成レポート
設定
構成の設定
スクリプトリポジトリ
構成の機能要望

すべて 構成

構成の表示: 全てのユーザーが作成 * 自分が作成 フィルター条件: カテゴリ プラットフォーム
[ゴミ箱に移動] [すべてのステータス]

構成名	カテゴリ	タイプ	ステータス	作成者	最終更新時刻	アクション	最後の更新者	すべての対象	未適用	成功	失敗	再試行中	適用不可	概要	プラットフォーム
Macアップグレード禁止		カスタムスクリプト	実行済み	admin	19-11-08 17:47:36		admin	1	0	1	0	0	0	対象の合計 (1) 成功 (1)	Mac
iCloudソフトウェアアップデート無効化		システム環境設定の制御	実行済み	admin	19-11-08 17:47:03		admin	1	0	1	0	0	0	対象の合計 (1) 成功 (1)	Mac
MyConfiguration1316		Mac パッチのインストール	再試行中	admin	19-11-08 16:43:16		admin	1	0	0	0	1	0	対象の合計 (1) 再試行中 (1)	Mac
MyConfiguration1318		Mac パッチのインストール	実行済み	admin	19-10-30 18:44:27		admin	1	0	1	0	0	0	対象の合計 (1) 成功 (1)	Mac
MyConfiguration1314		Mac パッチのインストール	実行済み	admin	19-10-29 10:20:08		admin	1	0	1	0	0	0	対象の合計 (1) 成功 (1)	Mac
MyConfiguration1313		Windows パッチのインストール	実行済み	admin	19-10-28 17:41:32		admin	1	0	1	0	0	0	対象の合計 (1) 成功 (1)	Windows

構成一覧

それぞれの構成名をクリックすると、構成の詳細情報を確認できます。

構成の詳細情報

[設定の詳細]タブでは、適用した構成の内容を確認できます。

構成の内容

[実行状態]タブでは、構成の適用ステータスの詳細を確認できます。一部の構成では「備考」列に、失敗/適用不可の場合の原因が出力されます。

構成の実行状態

1 0 - 3 テンプレート

Endpoint Central では、よく用いられる構成をデフォルトでテンプレートとして公開しています。テンプレートを用いることで、複雑な設定も簡単に構成として作成することができます。また作成した構成をテンプレートとして保存することも可能です。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3281

1. [構成]タブ → [テンプレート] をクリックします。構成を作成したい項目について、[構成の作成] をクリックします。

テンプレートの種類: <input checked="" type="radio"/> 定義済み <input type="radio"/> ユーザーが作成			
カテゴリ: すべて 合計: 69			
名前	カテゴリ	説明	アクション
コンピューターの自動ロック	🔒	指定した時間(秒)に自動でコンピューターをロックする	構成の作成
EXEファイルの実行のブロック	🔒	ユーザーによる特定のEXEファイルの実行を防ぐ	構成の作成
日付の表示形式の変更	📅	日付の表示形式を yyyy-MM-dd に変更する	構成の作成
ローカル管理者パスワードの変更	🔑	ローカル管理者ユーザーアカウントのパスワードを変更する	構成の作成
電源設定の変更	🔌	コンピューターの電源設定を変更する	構成の作成
日付/時刻の表示形式の変更	📅	日付/時刻の表示形式を変更する	構成の作成
ごみ箱のクリーンアップ	🗑️	ごみ箱から不要なデータを削除する	構成の作成
ODBCの設定(システムDSN)	🔌	すべてのユーザーがODBC経由でデータベースに接続するためにODBCデータソース名を設定する	構成の作成
ODBCの設定(ユーザーDSN)	🔌	特定のユーザーがODBC経由でデータベースに接続するためにODBCデータソース名を設定する	構成の作成
ローカル管理者権限の代替アカウントの作成	🔑	ローカル管理者の代替ユーザーアカウントを作成する	構成の作成
ハードディスクのデフラグ	🔌	ハードディスクをデフラグし、パフォーマンスを向上する	構成の作成
ローカル管理者の削除	🔑	ローカル管理者ユーザーアカウントを削除する	構成の作成
Windows Updateの無効化	🔒	ユーザーのWindows Update機能へのアクセスを無効にする	構成の作成
Adobe Acrobat X更新ツールを無効化	🔌	Adobe Acrobat Xの自動更新を無効化する	構成の作成

テンプレート

2. 必要項目が入力済みの状態で構成が作成されるため、適用対象、実行設定を構成して、[配布]ボタンをクリックします。

Endpoint Central の構成作成画面のスクリーンショット。画面には「構成の名前/説明」セクションがあり、名前と説明の入力欄があります。また、「レジストリ設定を構成する」セクションがあり、レジストリ設定の詳細が示されています。画面下部には「配布/適用対象の設定」セクションがあり、適用対象と実行設定の入力欄があります。画面右側には「必要な項目が入力済みになっている」というメッセージが表示されています。

適用対象の設定

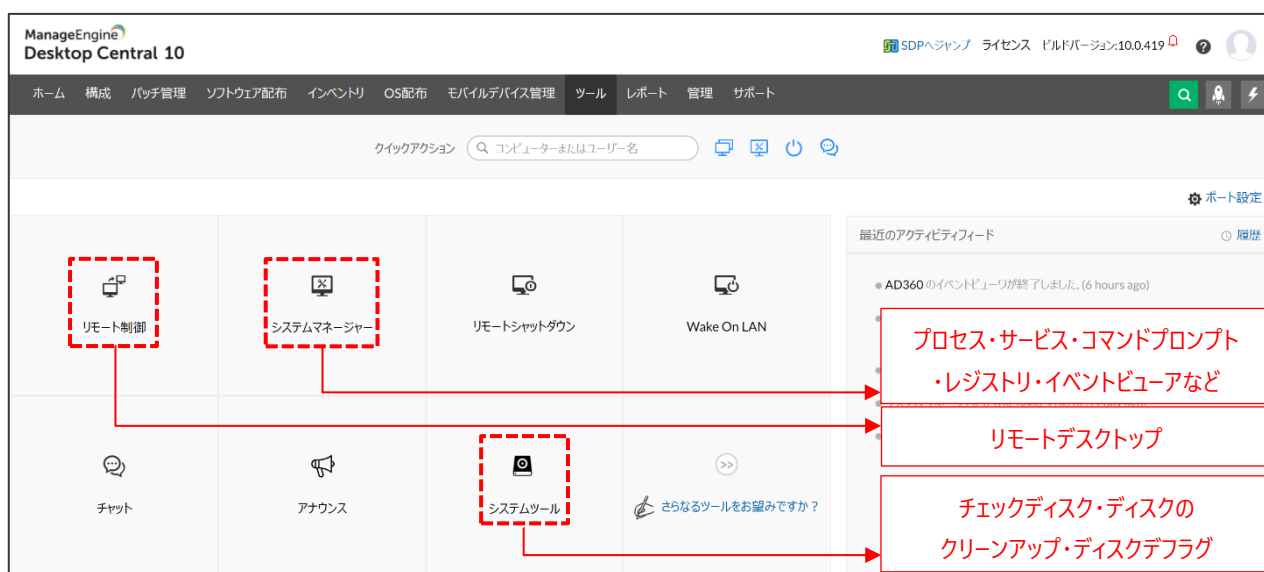
1 1 ツール

この章では、[ツール]タブからご利用いただける機能について説明します。

[ツール]タブには、リモート接続やシャットダウンの実施などの、管理対象 PC を遠隔操作する機能や、チャット・アナウンス機能などがあります。

なお、この章ではいくつかの機能のみを取り上げてご紹介します。説明を省略している機能につきましては、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2444

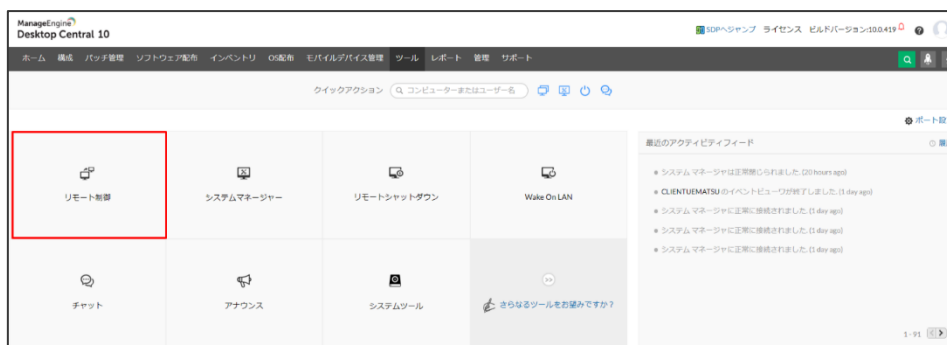


[ツール]タブ

1 1 - 1 リモート制御

リモート制御機能は、Windows、Mac、Linux に対応しています。コンピューターにリモート接続し、画面を共有します。接続中の設定としてユーザー側の画面ブラックアウトやマウス・キーボードの操作無効化を任意で設定でき、トラブルシューティングには非常に使いやすくなっています。

1. [ツール]タブ → [リモート制御] をクリックします。



リモート制御

2. 接続先コンピューターのアクションカラムにある[接続]をクリックします。



ManageEngine Desktop Central 10

SDPへジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

ツール

リモート制御
システムマネージャー
リモートシャットダウン
Wake On LAN
チャット
アナウンス
システムツール

さらなるツールをお望みですか?

リモートコントロールはリモートPCのトラブルシューティングを支援します。リモートコントロールを利用するためにはDesktop Centralエージェントのインストールが必要です。リモートコントロール先のコンピューターのプ...

モバイルデバイスからエネルギーを節約しましょう。
AndroidまたはiOSであれば、PCをリモートでシャットダウンし起動することでかなりの電力消費を節約できるようになりました。今すぐインストールする。

PC 履歴 設定 画面録画 パフォーマンス ユーザー確認

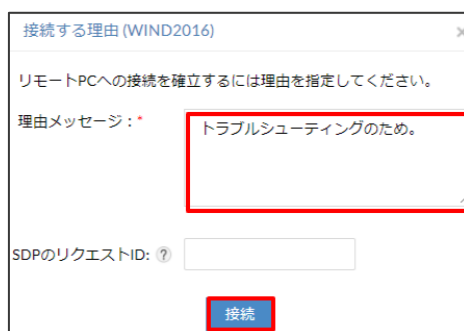
ユーザーに確認メッセージを表示する? ビュー: HTML5 Viewer Active X

フィルター条件: Local Office カスタムグループ エージェントのステータス プラットフォーム

PC名	ユーザー名	IPアドレス	アクション	備考	OS	接続ステータス
WIND2016	--	192.168.200.121.169.254.78.25	接続	16:41:16で切断されました		切断済み
uematsucent7	(unknown)	192.168.200.137.192.168.122.1	接続	--		未接続
uematsu	(unknown)	192.168.200.136,	接続	--		未接続
UEMA2012R2	administrator	192.168.200.162.169.254.239.18...	接続	15:50:16で切断されました		切断済み
Ubuntu1	--	192.168.200.93	接続	--		未接続
SAMMA-WIN2012	Administrator	192.168.200.145.169.254.54.217	接続	セッションが08:53:43 午後 adminによって切断されました。		切断済み

対象への接続

3. 理由メッセージを入力し、[接続] をクリックします



接続する理由 (WIND2016)

リモートPCへの接続を確立するには理由を指定してください。

理由メッセージ: *

SDPのリクエストID: ?

接続

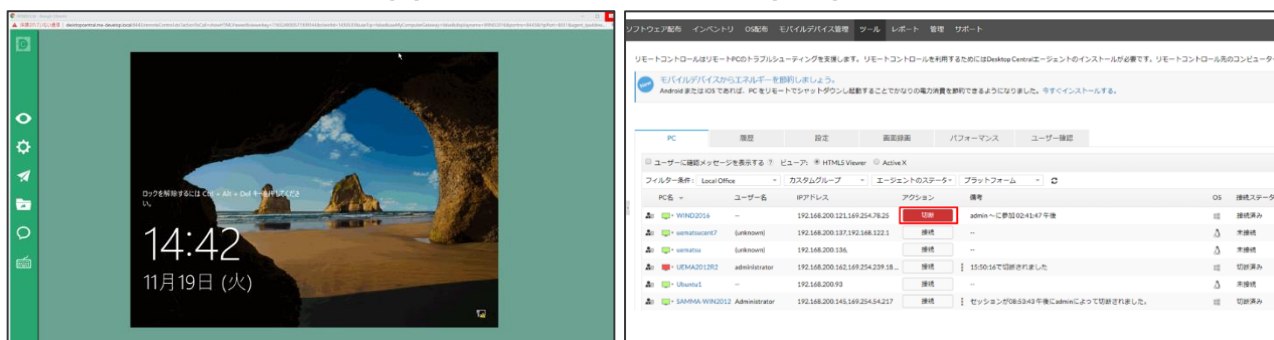
接続の理由

接続後、別タブまたは別ウィンドウが起動され、接続先コンピューターのログイン画面が表示されます。



画面の共有

接続を切断する場合、同ウィンドウの[×]をクリックする、または管理画面で[切断] をクリックします。



画面共有の切断

メモ：リモート制御機能は、RDP プロトコルを使用せずに画面を共有します。なお Linux へのリモート制御は、X Window System が必要です。

1 1 - 2 システムマネージャー

システムマネージャーでは、コンソール画面から管理対象端末に対して、実行中のプロセスの確認/強制終了、サービスの開始/停止、コマンドプロンプトの起動、レジストリエディタ、ファイルマネージャー、イベントビューア、デバイスマネージャーなどを利用・実行いただけます（Windows のみ対応）。本機能を利用することで、リモート制御を使用せず、簡易的なトラブルシューティングや障害原因の切り分けが可能です。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3565

(A) コマンドプロンプト

1. ツールタブ → システムマネージャー をクリックします。



システムマネージャー

2. 接続先コンピューターのアクションカラムにある管理をクリックします。

システムマネージャーは、各PCのプロセス、サービス、ソフトウェア、ユーザーを可視化します。

以前のエクスポートの詳細 | System Manager のさらなる機能が必要ですか? Linux

Filter By: ドメイン/リモートオフ | カスタムグループ | エージェントのステータス

PC名	ドメイン名	ブランチオフィス	開始ユーザー	最終アクセス時刻	アクション	備考
AD360	ME-DEVELOP	Local Office	admin	19-11-08 17:01:38	管理	セッションは次の時間に切断されました: 19-11-08 17:13:37
AJI-WIN2016	me-develop	Local Office	admin	19-10-30 14:21:00	管理	エージェントに到達できません。ナレッジを表示
CLIENTUEMATSU	me-develop	Local Office	admin	19-11-18 10:31:40	管理	セッションは次の時間に切断されました: 19-11-18 14:30:46
DEMO-AD	me-develop	Local Office	admin	19-01-23 16:57:11	管理	このエージェントのバージョンには互換性がありません。ナレッジを表示
DEMO-APM	me-develop	Local Office	admin	18-02-28 18:59:01	管理	セッションは次の時間に切断されました: 18-02-28 19:00:00
DEMO-ELA	me-develop	Local Office	admin	18-07-11 12:03:02	管理	セッションは次の時間に切断されました: 18-07-11 12:06:02
DEMO-OPM	me-develop	Local Office	--	--	管理	--
DEMO-PMP-NEW	me-develop	Local Office	admin	18-10-26 11:45:59	管理	セッションは次の時間に切断されました: 18-10-26 11:46:59

管理ツールの選択

3. コマンドプロンプトをクリックします。

システムマネージャーは、各PCのプロセス、サービス、ソフトウェア、ユーザーを可視化します。

以前のエクスポートの詳細 | System Manager のさらなる機能が必要ですか? Linux

Filter By: ドメイン/リモートオフ | カスタムグループ | エージェントのステータス

PC名	ドメイン名	ブランチオフィス	開始ユーザー	最終アクセス時刻	アクション	備考
AD360	ME-DEVELOP	Local Office	admin		プロセス	セッションは次の時間に切断されました: 19-11-08 17:13:37
AJI-WIN2016	me-develop	Local Office	admin		サービス	エージェントに到達できません。ナレッジを表示
CLIENTUEMATSU	me-develop	Local Office	admin		コマンドプロンプト	セッションは次の時間に切断されました: 19-11-18 14:30:46
DEMO-AD	me-develop	Local Office	admin		レジストリ	このエージェントのバージョンには互換性がありません。ナレッジを表示
DEMO-APM	me-develop	Local Office	admin		File Manager	セッションは次の時間に切断されました: 18-02-28 19:00:00
DEMO-ELA	me-develop	Local Office	admin		イベントビューア	セッションは次の時間に切断されました: 18-07-11 12:06:02
DEMO-OPM	me-develop	Local Office	--		Device Manager	--
DEMO-PMP-NEW	me-develop	Local Office	admin		共有	セッションは次の時間に切断されました: 18-10-26 11:46:59
FWA-XEN	me-develop	Local Office	--		プリンター	--
H-WIN2012	me-develop	Local Office	--		グループ	セッションは次の時間に切断されました: 18-08-23 14:40:38
KOHEI-WIN2016	me-develop	Local Office	admin		ソフトウェア	セッションは次の時間に切断されました: 19-08-02 14:44:49
marko2016	MASAGROUP321GO	Local Office	admin		ユーザー	--
MIKI-APP	me-develop	Local Office	--			--

コマンドプロンプトの起動

4. 管理画面上で、接続先コンピューターのコマンドプロンプトを起動し、任意のコマンドを実行できます。

ManageEngine Desktop Central 10

SDPAジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10.0.419

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

システムマネージャー

- プロセス
- サービス
- コマンドプロンプト
- レジストリ
- ファイルマネージャー
- イベントビューア
- デバイスマネージャー
- 共有
- プリンター
- グループ
- ソフトウェア
- ユーザー

AD360

次のユーザーでログイン中: SYSTEM

Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Windows\system32>

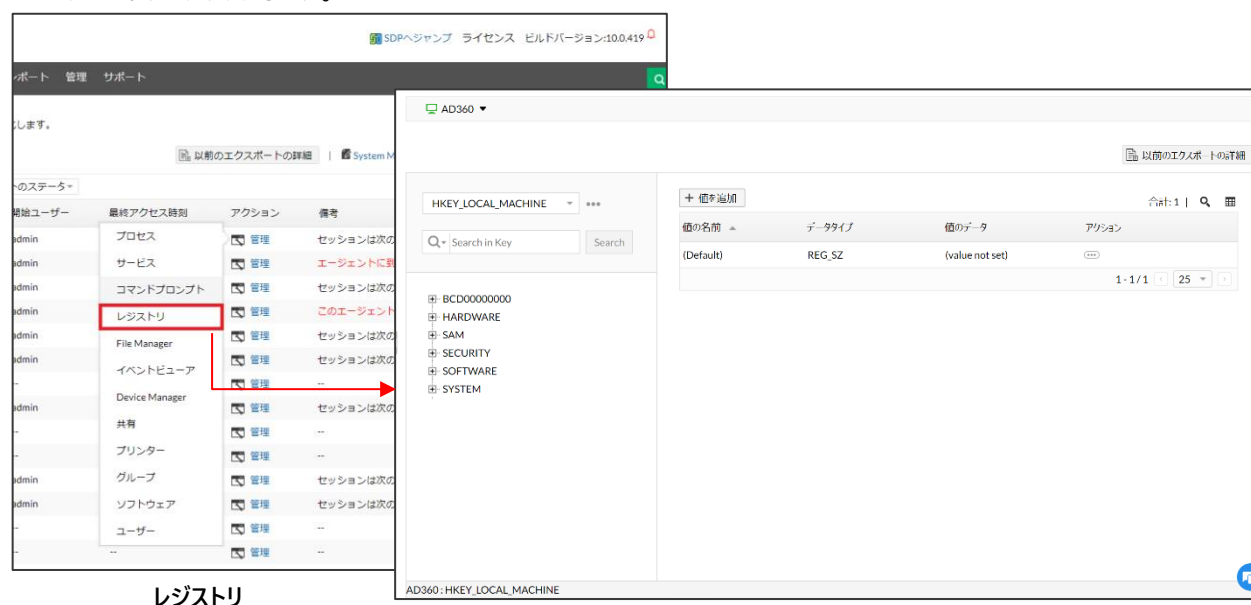
実行ユーザー

コマンドプロンプト

メモ：リモートコマンドプロンプト実行中、ユーザー側の画面には特に何も表示されないため、ユーザーに意識させず、トラブルシューティング可能です。

(B) レジストリエディタ

1. [ツール]タブ → [システムマネージャー] をクリックします。
2. 接続先コンピューターのアクションカラムにある**管理**をクリックします。
3. レジストリをクリックします。



管理画面上で、接続先コンピューターのレジストリエディタを起動し、レジストリを編集できます。

1 1 - 3 リモートシャットダウン

リモートシャットダウン機能は、Windows/Mac に対応しており、コンピューターに対してシャットダウン/再起動/休止モード/スタンバイ/画面ロックを実施できます。実施方法は、以下の 2 種類があります。

- (A) 即時での実施
- (B) スケジュール設定で実施

詳細は次のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2444#shutdown_tool

(A) 即時での実施

1. [ツール]タブ → [リモートシャットダウン] をクリックします。



リモートシャットダウン

2. 操作を実行したいコンピューターにチェックを入れ、[シャットダウン]または[アクション]から実施したい操作を選択します。



シャットダウンの実行

(B) スケジュール設定で実施

1. [ツール]タブ → [リモートシャットダウン] をクリックします。
2. [シャットダウンのスケジュール] → [シャットダウンのタスクを追加する] → プラットフォーム をクリックします。



シャットダウンタスクの追加

3. タスク名、実施する操作、各オプションを入力/選択します。

タスク名: シャットダウンタスク 任意のタスク名を入力します

操作: シャットダウン 再起動 休止 スタンバイ PCのロック 実行する操作を選択します

シャットダウンモード: ユーザーがログインしている場合は応答しない ユーザーが操作をスキップ・延期できるようにする (WindowsとMacのみ) 強制的にシャットダウン・再起動 シャットダウンモードを選択します

タイムアウト (分): 30 秒 シャットダウンまでの時間を入力します

メッセージ名: シャットダウン通知 (WindowsとMacのみ) シャットダウン時に表示させるメッセージを入力します

メッセージ: シャットダウンを実行します。必要に応じてスキップ/延期してください。 [最大: 500 文字]

Cancel Capture

シャットダウンタスクの詳細

4. タスクを実施する対象を設定します。

配布/適用対象の設定

対象 1 リモートオフィス/ドメイン Local Office

次の条件に基づいてコンピューターをフィルタする:

ドメイン me-develop

除外対象 ドメイン 選択

対象の設定

5. スケジューラーを設定します。

スケジューラーの設定

スケジューラーはまだ設定されていません。スケジューラーの設定

スケジューラー設定

現在のサーバー時刻: 11/19/2019, 16:50:54

間隔: 1回ごと 1日ごと 週ごと 月ごと

開始: 11/20/2019, 20:00 [24時間形式]

スケジュールは「Desktop Centralサーバー時間」に基づき実行されます

次で指定した通りに実行: 平日

スケジュール キャンセル

スケジューラー設定

6. [タスクの保存] をクリックします。

メモ:

シャットダウン等をスキップ・延期できる設定にしている場合、ユーザーのデスクトップ画面に、このような通知画面が表示されます。

ManageEngine Desktop Central

シャットダウン通知

シャットダウンまでの時間: 02:40

シャットダウンを実行します。必要に応じてスキップ/延期してください。

通知日時: 15 Mins

今すぐシャットダウンする シャットダウンを延期

シャットダウン通知

1 1-4 アナウンス

アナウンス機能は、コンピューターにログインしているユーザーに対して、メッセージを表示する機能です。

参考情報として次のナレッジをご参照ください。https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=4684

1. [ツール]タブ → [アナウンス] をクリックします。



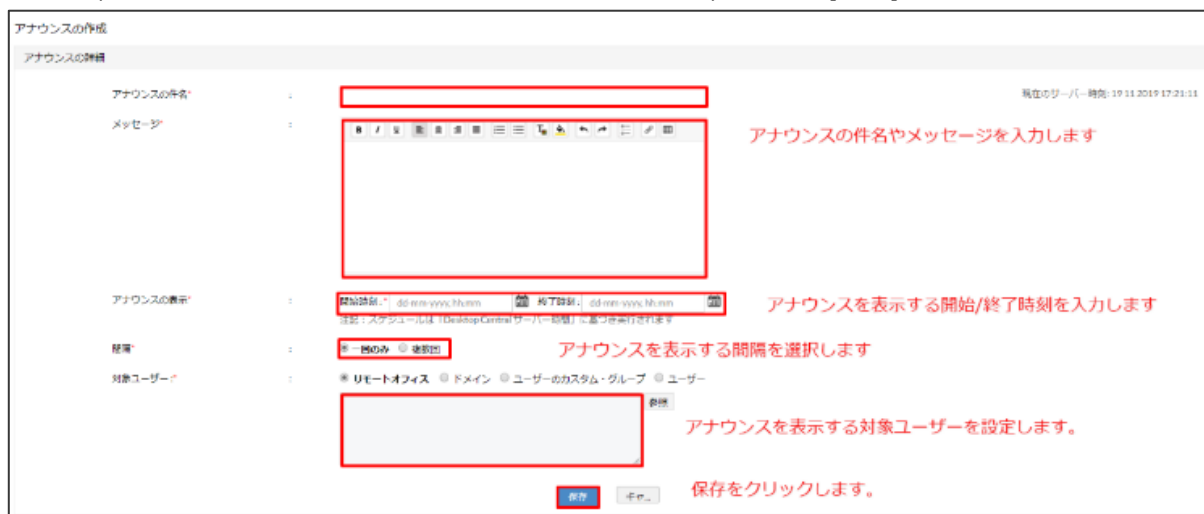
アナウンス

2. [アナウンスの作成] をクリックします。



アナウンスの作成

3. 各項目(アナウンス件名、メッセージ、表示時刻/間隔、対象ユーザー)を設定し、[保存] をクリックします。



アナウンス内容の編集

メモ：

アナウンスを公開すると、ユーザーのデスクトップ画面に、次のようなポップアップが表示されます。

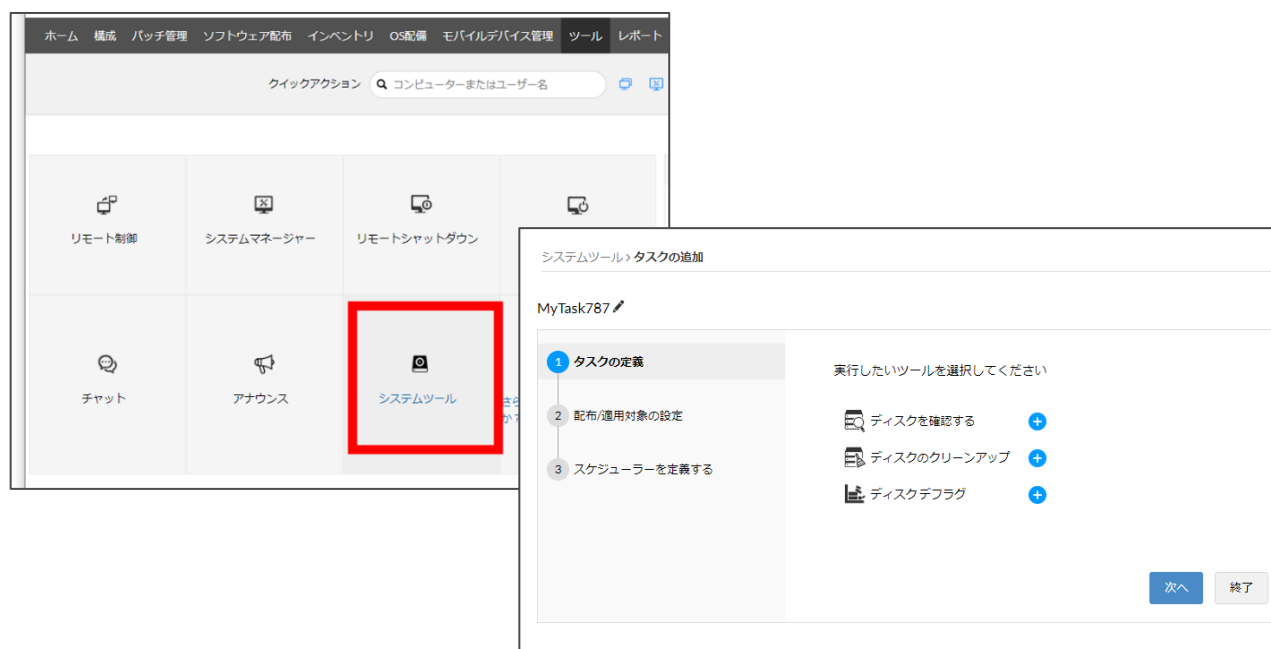
アナウンス画面



1 1 - 5 システムツール

【システムツール】では、ディスクのクリーンアップやデフラグなどがご利用いただけます。設定手順は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=2444



1 2 モバイルデバイス管理

[モバイルデバイス管理]タブを利用して、モバイル端末を管理・制御することができます。

パスワード強化やアプリの使用制限、Wifi、ウェブページの閲覧制限といった端末設定のほか、リモートワイプなど様々な機能があります。また、監査機能も充実しています。

タイプ	イベント時間	モジュール	備考
1	19-09-02 17:29:23	登録	Enrollment Request for the user admin(yosuke.uehara@zohocorp.com) has been successfully removed
1	19-09-02 17:29:23	登録	Enrollment Request for the user admin(yosuke.uehara@zohocorp.com) has been successfully removed
1	19-09-02 17:29:22	登録	Enrollment Request for the user admin(yosuke.uehara@zohocorp.com) has been successfully removed
1	19-08-21 14:39:25	登録	デバイス登録要求がadminのため、yosuke.uehara@zohocorp.comで作成されました
1	19-08-20 17:37:02	登録	デバイス登録要求がadminのため、yosuke.uehara@zohocorp.comで作成されました
1	19-08-20 16:45:20	MDMグループ	“東京支店”は正常に作成されました
1	19-06-10 21:00:00	登録	管理対象ユーザーのActive Directory同期が開始されました。
1	19-06-09 21:00:00	登録	管理対象ユーザーのActive Directory同期が開始されました。
1	19-06-08 21:00:00	登録	管理対象ユーザーのActive Directory同期が開始されました。

[モバイルデバイス管理]タブ（[監査]小タブを開いた画面）

Endpoint Central のライセンス体系では、iOS/Android 端末などを PC と同じ「エンドポイント」として扱い、台数をカウントしています。そのため、各種デバイスの合計数をご契約のライセンス数の範囲内である限り、任意の台数のモバイルデバイスを管理（登録）することができます。

モバイルデバイス管理の詳細については、以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?cat=37

また、Endpoint Central（オンプレミス版製品）と機能が共通する Endpoint Central Cloud（クラウド版製品）の、モバイルデバイス管理スタートアップガイドも合わせてご覧ください。

https://www.manageengine.jp/sites/default/files/download/EC/eccmdm_startupguide.pdf

1 3 レポート

[レポート]タブでは、Active Directory レポート、ユーザーログインレポート、パッチレポート、インベントリレポートなど、デフォルトで100 種類以上のレポートを閲覧・エクスポートすることができます。

また、レポートを定期的に出力/受信するスケジュールレポート機能、出力するデータを選択してカスタマイズするカスタムレポート機能、データベースから直接データを抽出/出力するクエリレポート機能もご利用いただけます。

ManageEngine Desktop Central 10

SDPヘジャンプ ライセンス ビルドバージョン:10.0.419

ホーム 構成 パッチ管理 ソフトウェア配布 インベントリ OS配布 モバイルデバイス管理 ツール レポート 管理 サポート

レポート

レポートカテゴリ

- スケジュールレポート
- カスタムレポート
- クエリレポート
- Active Directoryのレポート
- ユーザーレポート
- PCのレポート
- グループのレポート
- OUのレポート
- ドメインのレポート
- GPOのレポート
- ユーザーログインレポート
- 電源管理レポート
- 構成レポート
- パッチレポート
- インベントリレポート
- USBレポート
- MDMLレポート

一般レポート

- 現在ログイン中のユーザー
- 現在ユーザーログイン中のPC

使用状況レポート

- ユーザーがログインしていないPC

履歴レポート

- ユーザーのログイン履歴
- PCごとのユーザーログイン履歴
- ドメインコントローラーへのユーザーログイン履歴
- 報告されたユーザーがいるドメインコントローラー

ユーザーのログイン履歴

フィルター条件: すべてがメイン ログインのデータを参照する 期間を指定 From: 00:00:00 To: 00:00:00 検索

ユーザー名	ドメイン名	ユーザーログイン数	最後にログインしたPC	最後にログイン時刻	最後にログアウト時刻
Administrator	MASAGROUP21SGO	1	--	--	19-10-23 13:38:43
administrator	me-develop	14	AD380	19-10-23 16:30:02	19-10-23 16:13:17
chizu	ME-DEVELOP	2	AD380	19-09-17 17:12:39	19-09-27 20:37:07
demo2	me-develop	1	AD380	19-07-30 16:00:25	--
Satoshi	ME-DEVELOP	1	AD380	19-07-31 14:09:06	19-07-31 14:23:06
satoshiyama	ME-DEVELOP	2	AD380	19-08-02 17:15:32	19-07-31 14:49:39
shohai	me-develop	3	AD380	19-10-24 13:41:09	19-10-21 18:14:36
UserA	ME-DEVELOP	1	AD380	19-07-30 15:51:49	--

1 / 8 25

USB監査レポート

USB監査レポートは、USBデバイスの使用を監視します。フィルターを使用してレポートを表示します。USBを接続したデバイスの履歴を参照する。リセット

フィルター: * すべて * デバイスの種類: すべて * * 529グループ: * * * * * 期間: --月/日 -- 10月 2019

検索 リセット

表示: * 概要 * * 詳細 * From: 2019-10-02 To: 2019-11-01 合計: 3 1 25

PC名	ドメイン名	最終報告時刻	イCD人数
AD380	ME-DEVELOP	19-10-31 18:51:03	28
DEMO-PHP-NEW	me-develop	19-10-31 19:59:27	28
maru2016	MASAGROUP21SGO	19-11-01 00:25:28	27
SABRHA-0002012	me-develop	19-11-01 16:39:59	20
WIND2016	me-develop	19-10-31 23:37:43	27

1 / 15 25

[レポート]タブ

1 3 - 1 既定で利用できるレポート

Endpoint Central にあらかじめ用意されているレポートは、大きく分けると Active Directory に関するレポートと、その他のレポートに分けられます。

Active Directory レポート

Active Directory に関するレポートを表示するには、以下の設定を実施します。

1. あらかじめドメインの資格情報を登録（→ [5-5-2](#) または [5-5-3](#)）しておきます。
2. Active Directory に関する情報を定期的には、
[管理]タブ→ レポート → [AD レポート設定] をクリックし、スケジュール設定を行います。

AD 同期スケジューラー

3. 手動で Active Directory に関する情報を更新するには、
[レポート]タブを開き、[Active Directory] の横の歯車アイコンをクリックします。
更新したいドメインを選択し、[変更事項のみ同期] または [すべて同期] をクリックします。

AD 同期設定

以上の設定（および更新）が完了すると、Active Directory に関するレポートが表示できます。
詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3581

Active Directory のレポートの例として、以下の図のように無効なユーザーアカウントの棚卸しを行うことが可能です。

レポート			
レポートカテゴリ			
スケジュールレポート	一般レポート	パスワードベースのレポート	アカウントステータスレポート
カスタムレポート			
クエリレポート	パスワードベースのレポート	アカウントステータスレポート	有効なユーザーアカウント(0)
Active Directoryのレポート			
ユーザーレポート	すべてのユーザーアカウント(94)	パスワード期限切れに近いユーザーアカウント(0)	非アクティブなユーザーアカウント(94)
PCのレポート	最近作成したユーザーアカウント(0)	パスワード期限切れのユーザーアカウント(73)	無効なユーザーアカウント(81)
グループのレポート	最近変更したユーザーアカウント(0)	パスワード期限がないユーザーアカウント(15)	期限切れのユーザーアカウント(21)
OUのレポート	ログインスクリプトなしのユーザーアカウント(5)	パスワードを変更できないユーザーアカウント(0)	
ドメインのレポート	複数のグループのユーザーアカウント(9)		
GPOのレポート	有効期限のないユーザーアカウント(73)		
ユーザーログインレポート	特権ユーザーアカウント	ログインベースのレポート	
	ドメイン管理者のユーザーアカウント(3)	未使用のユーザーアカウント(69)	
	ダイヤルインアクセス権を持ったユーザーアカウント(2)	最近ログインしたユーザーアカウント(0)	
		最終ログインが失敗したユーザーアカウント(23)	

Active Directory のユーザーレポート

無効なユーザーアカウント					
合計: 81 🔍 📄 📌					
名前 ▲	ドメイン名	変更時刻	フル名	メールアドレス	最終ログイン時刻
AdilRami	me-develop.local	17-08-09 13:29:03	AdilRami	-	--
Andre-PierreGignac	me-develop.local	17-11-21 13:54:56	Andre-PierreGignac	-	--
AnthonyMartial	me-develop.local	17-08-08 18:34:24	AnthonyMartial	-	--
AntoineGriezmann	me-develop.local	17-03-03 10:01:10	AntoineGriezmann	-	--
BacarySagna	me-develop.local	17-03-03 10:01:07	BacarySagna	-	--
BenHamer	me-develop.local	17-03-03 10:01:08	BenHamer	-	--
BenoitCostil	me-develop.local	17-03-03 10:01:04	BenoitCostil	-	--
BlaiseMatuidi	me-develop.local	17-03-03 10:01:05	BlaiseMatuidi	-	--
ChristianFuchs	me-develop.local	17-03-03 10:00:59	ChristianFuchs	-	--
ChristopheJallet	me-develop.local	17-03-03 10:01:07	ChristopheJallet	-	--
DanielAmartey	me-develop.local	17-03-03 10:01:08	DanielAmartey	-	--
DannySimpson	me-develop.local	17-03-03 10:00:57	DannySimpson	-	--
DemaraiGray	me-develop.local	17-03-03 10:01:06	DemaraiGray	-	--
demo2	me-develop.local	18-01-18 18:52:17	demo2	-	17-06-07 13:31:39

無効なユーザーアカウント一覧

その他の既定のレポート

Endpoint Central にあらかじめ用意、Active Directory 関連以外のレポートは、
[レポート]タブ→ 他のレポート にまとめられています。

※ 一部のレポートは、有効化・無効化を [管理]タブ→ レポート → [レポート設定] から変更できます。



[レポート]タブ → 他のレポート → [インベントリレポート]

それぞれのレポートを、[インベントリ]タブをはじめとする各タブの各機能と合わせて利用することにより、社内・組織内の資産の把握に役立てることができます。

1 3 - 2 ユーザー定義のレポート

ユーザー（Endpoint Central へのログイン権限をもつ製品ユーザー）のニーズに合わせたレポートを出力する「ユーザー定義のレポート」として、スケジュールレポート、カスタムレポート、クエリレポートがご利用いただけます。

スケジュールレポート

スケジュールレポートでは、スケジュールを設定して定期的にレポートを出力/受信できます。詳細は以下のナレッジをご覧ください。
https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3400

<スケジュールレポート設定方法>

1. [レポート]タブ → ユーザー定義のレポート → [スケジュールレポート] → [スケジュールレポートの追加] をクリックします。



スケジュールレポートの作成

2. 各項目(スケジュール名、レポートの選択)を入力/選択します。

スケジュールレポートの設定

3. 各項目（送信形式、受信者、頻度、ユーザー同意）を設定して、[保存]をクリックします。

スケジュールレポートの設定

カスタムレポート

カスタムレポートでは、指定した条件をもとに、指定したフィールドに関する情報をレポートとして一覧で表示できます。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=3629

1. [レポート]タブ → ユーザー定義のレポート → [カスタムレポート] → [新規カスタムレポート] をクリックします。



カスタムレポートの作成

2. 各項目(レポート名、サブモジュール、条件、列)を入力/選択し、[実行 & 保存] または [実行] ボタンをクリックします。



カスタムレポートの作成

クエリレポート

クエリレポートでは、クエリを直接実行して、必要なデータを抽出できます。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=1726

1. [レポート]タブ → ユーザー定義のレポート → [クエリレポート] → [新規クエリレポート] をクリックします。
2. 各項目(レポート名、クエリ、表示数)を入力/選択し、[実行 & 保存] または [実行] ボタンをクリックします。



クエリレポートの作成

1 4 ライセンス・お問い合わせ

1 4 - 1 評価版の試用

Endpoint Central は 30 日間すべての機能を試用可能な評価版を無料で提供しています。評価期間中は製品のすべての機能、技術サポートがご利用いただけます。

評価版のダウンロード

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/download.html

なお、製品をご購入いただいた場合は、評価版の環境にライセンスを適用していただくことで、構築した設定・環境をそのままご利用可能です。

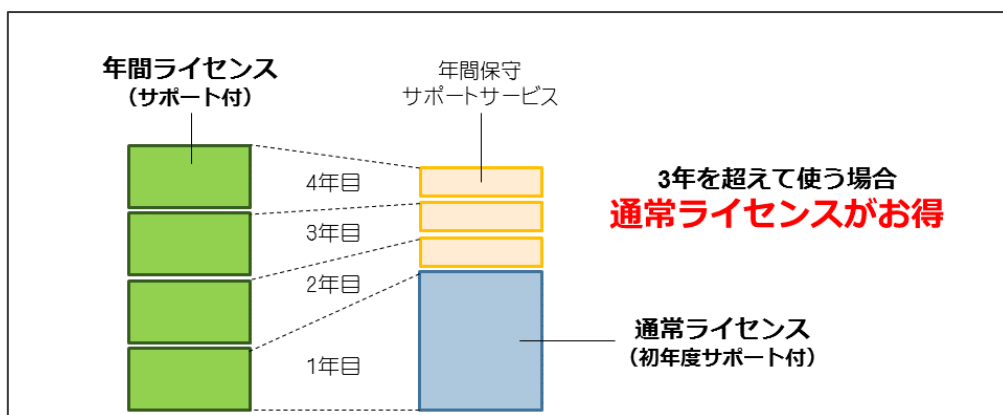
1 4 - 2 ライセンスの種類・価格

(A) ライセンスの種類

Endpoint Central には「通常ライセンス」と「年間ライセンス」の 2 つのライセンス形態があります。

通常ライセンスと年間ライセンスの比較

種 類	内 容	特 長
通常ライセンス	<ul style="list-style-type: none">■ 無期限の製品ライセンス (初年度のみ年間保守サポートサービスが含まれる)■ 製品の納品日から保守サービスが開始され、以後 1 年ごとに年間保守サポートサービス契約を更新する	<ul style="list-style-type: none">■ 導入の翌年以降は年間保守サポート費のみ■ 3 年を超えるご利用で、トータルの費用が年間ライセンスより少額
年間ライセンス	<ul style="list-style-type: none">■ 1 年間利用可能な製品ライセンス (年間保守サポートサービスが含まれる)■ 1 年ごとに年間ライセンス契約を更新する	<ul style="list-style-type: none">■ 毎年定額■ 初期費用が少額



通常ライセンスと年間ライセンスの比較

(B) ライセンスの価格

ライセンスの価格は、管理対象（PC・モバイルデバイス）の台数、および製品ユーザーの人数によって決まります。まずライセンスの種類をお選びいただき、管理対象となる PC の台数を選択後、必要に応じてユーザー数のオプション・セキュアゲートウェイサーバーオプションを追加します。

1. ライセンスの種類（通常ライセンス/年間ライセンス）を選択
2. 管理対象となるエンドポイント数を確認し、価格表からライセンスを選択
3. 製品コンソール画面にアクセスする IT 管理者^{※1}（製品ユーザー）の人数に応じて、オプションを追加^{※2}

ライセンス価格表

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/pricing.html

※1 価格表においては製品コンソール画面にアクセスする製品ユーザー（役割に関わらず）の人数を「ユーザー数」と表記しています。なおユーザー数とは同時ログイン数ではなく、製品ユーザーのアカウントの数となります（複数人でアカウントを使いまわすことはできません）。

※2 OS 配布アドオンにつきましては、日本法人によるサポートを現在提供しておりません。作成した OS イメージの配布ターゲットとなる PC 台数に応じた料金体系となります。配布ターゲットとなる PC の MAC アドレスに紐づくライセンスとなり、同一マシンに対しては何度でも OS イメージの配布が可能です。詳細や金額等につきましては、別途お問い合わせください。

※3 お見積りに関しては営業窓口（jp-mesales@zohocorp.com）までお問い合わせください。

1 4 - 3 ライセンスの適用

ライセンスをご購入いただいた場合、ご登録いただいたメールアドレスにライセンスファイルを送付いたします。以下の手順にしたがい、評価版の環境（またはライセンス更新対象の環境）にライセンスを適用します。詳細は以下のナレッジをご覧ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Desktop_Central/?p=51

ライセンスの適用方法

1. 製品を起動し、対応する Web ブラウザーでコンソール画面にログインします。
2. 画面右上の **ライセンス** をクリックします。



ライセンスの適用

3. 表示される「ライセンス詳細」画面から、**[ファイルを選択]**ボタンをクリックします。送付されたライセンスファイルを選択して適用します。

1 4 - 4 お問い合わせ

評価版の使用期間 / 製品ご購入後の技術サポートは、以下のリンクよりご利用ください。

評価版サポート

<https://www.manageengine.jp/support/trial.html>

製品ご購入後のサポート

<https://www.manageengine.jp/support/purchased.html>

Endpoint Central に関するご質問・ご購入は、下記までお問い合わせください。

製品提供元

ゾーホージャパン株式会社

神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-6-1 みなとみらいセンタービル 13 階

Tel: 045-319-4612 (ManageEngine 営業担当)

Web サイト:

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/

E-mail: jp-mesales@zohocorp.com



©ZOHO Japan Corporation. All rights reserved.